

美しい時代へ——東急グループ



A N N U A L R E P O R T

2 0 1 0

2 0 1 0 年 度
事 業 報 告 書

学校法人 五島育英会

(旧 武蔵工業大学)

東京都市大学

TOKYO CITY UNIVERSITY

世田谷キャンパス [工学部/知識工学部]

横浜キャンパス [環境情報学部]

等々力キャンパス [都市生活学部/人間科学部]

附属中学校・高等学校 / 等々力中学校・高等学校 / 塩尻高等学校 / 附属小学校 / 二子幼稚園

(旧 武蔵工業大学附属中学校・高等学校)

(旧 東横学園中学校・高等学校)

(旧 武蔵工業大学第二高等学校)

(旧 東横学園小学校)

(旧 東横学園二子幼稚園)



目次

- 03 理事長メッセージ
- 04 東京都市大学グループの理念と目標
- 05 五島育英会のあゆみ
- 06 2010年度ハイライト
- 12 設置校の概要
東京都市大学、東京都市大学附属中学校・高等学校
東京都市大学等々力中学校・高等学校、東京都市大学塩尻高等学校
東京都市大学附属小学校、東京都市大学二子幼稚園
- 19 活動トピックス2010
- 20 財務ハイライト
- 22 2010年度 五島育英会の財務概要
キャッシュフロー計算書、消費収支計算書(P/L)、資金収支計算書
消費収支計算書、貸借対照表、6年間の財務データ(推移) など
- 30 2011年度の事業計画、2011年度の施設等整備計画、各種奨学制度
- 32 学校法人五島育英会の概要
事業活動、組織改革、組織図、役員一覧、東急グループについて
五島育英会ハヶ岳山荘

2010年度事業報告書 学校法人五島育英会

発行日: 2011年7月
 発行者: 学校法人五島育英会
 〒150-0043
 東京都渋谷区道玄坂1丁目10番7号 五島育英会ビル8F
<http://www.goto-ikuei.ac.jp>

本報告書の対象範囲:
 学校法人五島育英会の大学、高等学校、中学校、小学校、幼稚園、自動車学校

本報告書の対象期間:
 2010年4月1日~2011年3月31日
 (一部、上記期間以前または以後の状況についても記載しています)

無断転載を禁止します。
 All Rights Reserved.
 Printed in Japan © Goto Ikueikai Education Foundation 2011

お問い合わせは
 学校法人五島育英会
 〒150-0043
 東京都渋谷区道玄坂1丁目10番7号 五島育英会ビル8F
 TEL 03-3464-6911(代表) FAX 03-3464-6650

教育の真価が問われる今、さらなる前進を目指して



学校法人五島育英会理事長 安達 功

この度、2011年4月1日付で学校法人五島育英会の理事長を拝命いたしました。2010（平成22）年度事業報告書の発行にあたり、当法人を代表してご挨拶申し上げます。

はじめに、この度の東日本大震災において被災された方々に謹んでお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心より祈念いたします。

当法人では、今般被災された東京都市大学グループ全学校の入学生および在學生を対象に、状況に応じ、入学検定料、入学金、授業料を免除する緊急支援を行いました。被災された学生・生徒たちが学修の機会を失わず、希望を持って未来を切り拓くことができるよう、今後も支援してまいります。

「理念と目標」、共通の価値観の下に進む諸施策

私どもは、都市大グループの誕生を契機に、「健全な精神と豊かな教養を培い 未来を見つめた人材を育成します」との「教育理念」と、「国際的な視野と情報活用能力を身につけ 健全な精神と豊かな教養をもって、国際社会で活躍する 有為な人材を育成します」との「教育目標」を掲げました。グループ誕生から2年目を迎えた2010（平成22）年度は、この「理念と目標」が示す共通の価値観の下、具体的な諸施策に鋭意取り組んだ1年となりました。

東京都市大学では、世田谷キャンパスをリニューアルしており、新1号館の建設など、引き続き施設・設備のさらなる改善に努めております。教育・研究においては「質の高いキャリア形成教育」を積極的に展開し、厳しい就職状況の中、就職希望者に対する内定率は95.0%を記録しました。東京都市大学付属中学校・高等学校では、完全6カ年一貫教育の実施および難関大学への合格実績者数増加など、着実に実績を上げております。東京都市大学等々力中学校・高等学校では、女子部に加えて「共学部」を開設。これに併せて、多様化する教育に対応し

た最新設備を備える地上5階建ての安全で堅牢な新校舎が完成いたしました。東京都市大学塩尻高等学校では、学科・コースの再編を行いカリキュラムの再編に取り組むとともに、課外活動の活性化にも積極的に取り組んでいます。各大会で空手道部、野球部、サッカー部、女子バレーボール部が長野県大会1位という優秀な成績を修めました。

都市大グループ全体では、学生生徒等のさらなる学校生活の充実と運動施設の拡充を目指し、世田谷区の二子玉川に野球場・テニスコート・クラブハウスを備えた「総合グラウンド」を開設しました。このほかにも、都市大グループのスケールメリットを存分に生かして、大学と各付属高校との「高大連携」をはじめとする学校間連携事業を積極的に展開しています。

2011（平成23）年も、たゆまずに続く改革

長引く経済不況に加えて今回の大震災・原発事故の影響により、わが国は現在、これまでにない激動の中にあります。しかし、どのような状況であっても、「教育は国の生命線」であり、目指すべきところ、その価値は普遍的であり、揺るぎなく確固としたものであると、私は確信しております。

都市大グループでは、幼稚園から大学、大学院まで一貫して良質な教育を提供しながら、持続可能な社会発展のために貢献できる人材を送り出し、時代と社会の要請に応え続けることに、その使命と存在意義があると考えます。2011（平成23）年も果敢にチャレンジしながら、たゆまず改革を続けてまいります。

本事業報告書を通して、当法人が設置する各学校の現状と展望にご理解をいただきますとともに、倍旧のご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

東京都市大学グループの理念と目標

学校法人五島育英会は、豊かな人間性、国際化社会に適応できる人材の育成を目指し、良質の教育と幼稚園から大学までの一貫教育を行い、特色ある私学の創造に努めてまいりました。そこでは、優れた教育・研究者を擁し、積極的な施設設備の拡充により教育環境を整え、教育内容を充実し、教育の成果はもとより、進学・就職においても、着実な成果を上げてまいりました。

2009（平成21）年4月1日、武蔵工業大

学は既存の工学部、知識工学部、環境情報学部、新たに都市生活学部と人間科学部の文系2学部を加えて、5学部16学科を擁する「東京都市大学」として、新たなスタートを切りました。これに併せて、付属の高校3校、中学校2校、小学校1校、幼稚園1園も同時に大学名を冠として名称を変更、「東京都市大学グループ」を形成し、より緊密な連携を図ることとなりました。

東京都市大学グループの使命は、単に

知識や技術の修得だけでなく、優れた感性と品性を備え、世界から待望される有為な人材を育て上げていくことです。

東京都市大学グループは、それぞれの学校がこれまで培ってきた歴史と伝統を生かしながら、それらを融合することによって得られる学園全体の総合力を最大限に発揮できるよう、東京都市大学グループの理念と目標を策定いたしました。通底するのは、未来に向かって着実に進化し、つねにチャレンジする精神です。

1 教育理念

健全な精神と豊かな教養を培い
未来を見つめた人材を育成します

2 教育目標

国際的な視野と
情報活用能力を身につけ
健全な精神と豊かな教養をもって、
国際社会で活躍する
有為な人材を育成します

3 グループ ヴィジョン

都市大グループは、
未知の世界を切り開き、
未来に向かって挑戦します

東京都市大学グループのシンボルマーク・ロゴタイプについて



東京都市大学グループの誕生に伴い、共通したシンボルマークとロゴタイプを定めました。
シンボルマーク…略称「都市大」の「都市」の「T」を図案化したものです。
サステナブルな明るい未来を見通す「窓」でもあり、そうした社会を実現するための「知恵のフキダシ」の象形でもあります。
マークの色調（アイデンティティカラー「TCUブルー」）は、知性とサステナブルな明るい未来を意味しています。
ロゴタイプ…シンプルでカーブの効いたゴシックのタイプフェイスは、時代に柔軟で、若々しさのある学校であることを表現しています。

東京都市大学グループ学園歌

五島育英会のウェブサイトにて試聴いただけます → http://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/song_of_tcu_group.html

夢に翼を

作詞・作曲 岩代浩一
編曲 岩代太郎

1.
まなびや
学園の道の 陽を浴びて
精気さやかな 都市に起つ
未来を目ざす 心意気
不滅の精神を学ぶなり
香る個性の煌きに
あす
明日の英知を磨き合う
もろて
双手に燃える青春の
夢に翼を 夢に翼を

2.
まなびや
学園の大地に 風わたり
てんくそうそう
天空蒼々と 冴えるとき
あうん いふき
阿吽の息吹 朋友の声
讃歌たからかに ひびくなり
若き生命の羽ばたきに
あす
明日の希望を語り合う
力あふれる青春の
夢に翼を 夢に翼を

3.
まなびや
学園の森に 集い来て
こずえ つたえ
梢するどく 指す木立
遥かに仰ぐ 大宙の
北斗に真理の光あり
古き伝統の温もりを
あす
明日に生かして励み合う
血潮みなぎる青春の
夢に翼を 夢に翼を

五島育英会のあゆみ

五島育英会は、東急グループの創設者である五島慶太を初代理事長として、1955（昭和30）年6月に設立した学校法人です。当時の設置校は武蔵工業大学、同短期大学部、同付属高等学校、東横学園高等学校、同中学校の5校でした。

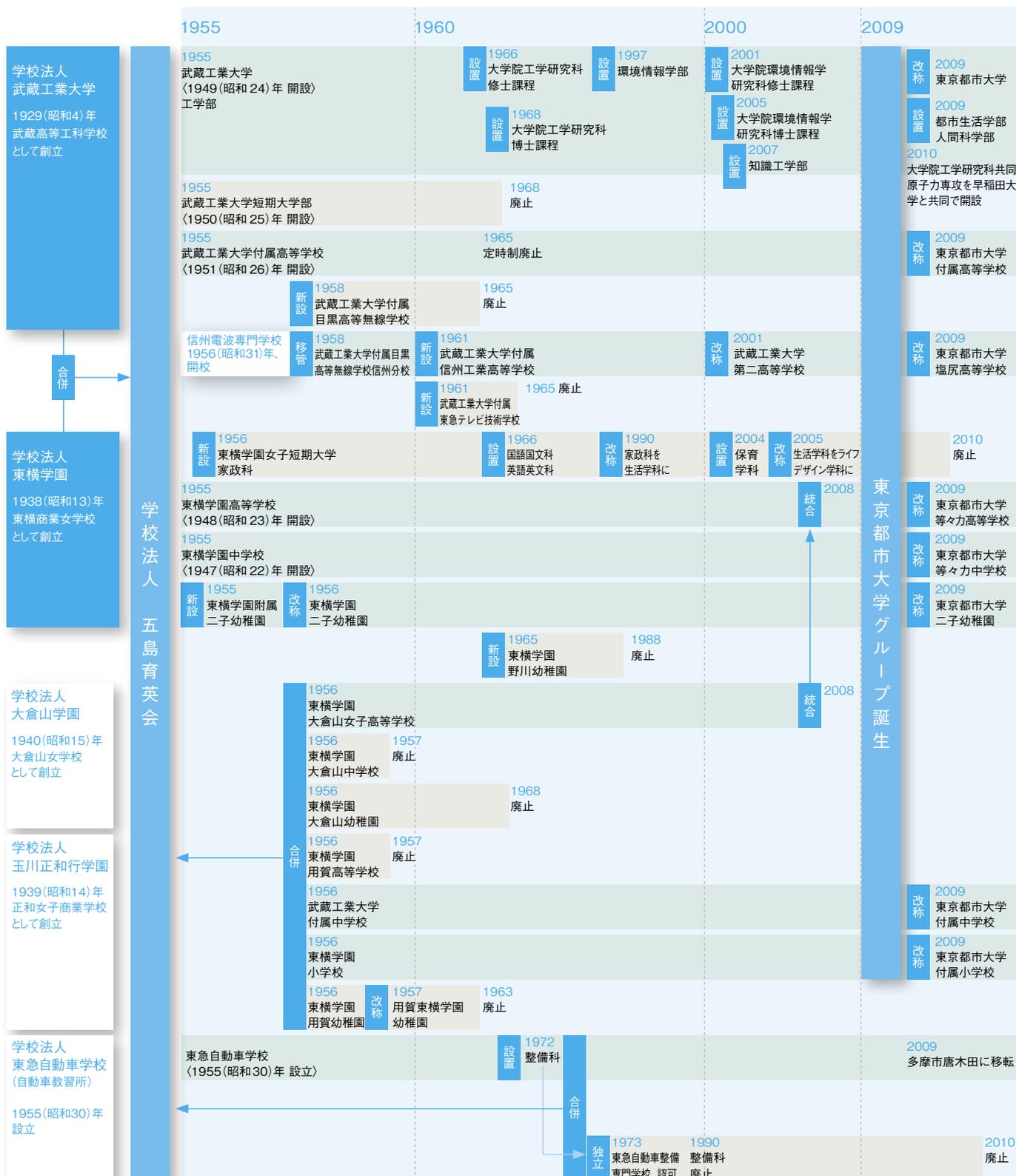
その後幾多の変遷を経て、2009（平成

21）年4月、設置する大学1校、高等学校3校、中学校2校、小学校1校、幼稚園1園に「東京都市大学」の名称を冠し、「東京都市大学グループ」を形成しました。

在籍学生等は1万人を超え、卒業生総数は約15万人です。自動車学校の卒業生を含めると約50万人に達します。



五島慶太
初代理事長



2010年度ハイライト

学校法人五島育英会は、豊かな人間性や国際化社会に適応できる人材の育成を目指しています。「2010年度ハイライト」では、幼稚園から大学までの各グループ校の2010年度の活動において、社会から注目を集めたトピックスを紹介し、社会に役立つ研究成果をはじめ、教育設備の整備、園児や児童、生徒、学生らの多様な活躍を取り上げています。

研究活動

東京都市大学

水素エンジンとモーターを備えた 水素ハイブリッドトラックの開発に成功

東京都市大学の水素エンジンの研究は、1970年に日本で初めて水素エンジンの運転に成功して以来、先駆的に取り組んでいます。2009年4月に発表した水素燃料エンジンバスに続き、2010年には、水素ハイブリッドトラックの開発に成功。同年11月4日にプレス発表を行いました。

冒頭の挨拶で、中村英夫学長は「ハイブリッドシステムの採用で、ディーゼルエンジン搭載のトラックと比較しても遜色ない動力性能を確保、商用車として十分な実用性を備えています」と研究成果をアピール。研究の中心人物である総合研究所自動車エンジン研究室の伊東明美准教授は、水素燃料エンジンバスの課題であった低速トルク時のパワー不足や最高出力の底上げを解決したことを強調しました。

水素燃料エンジンは、水以外の排出物を出さない環境に優しい技術として、トラックやバスなど商用車での実用化が期待されています。東京都市大学では水素燃料エンジンバスの開発後、国内初の公道走行を実現しており、その際明らかになった分析結果や課題を生かし、新たに水素エンジンとモーターを動力源とする水素ハイブリッドトラックを開発しました。

開発した水素ハイブリッドトラックは、日野自動車株式会社の小型ハイブリッドトラック「デュトロ」をベース車両にしています。ハイブリッドシステムの採用で低速トルクを向上させるとともに、点火システムの変更により高回転時の出力向上と耐久性の確保を実現。同トラックは、ディーゼルエンジンを搭載するトラックと同等の動力性能を有し、宅配便や資源回収車などの幅広い用途に活用できると期待されています。



東京都市大学 水素ハイブリッドトラック
仕様概要 排気量:4009cc 最大出力:126SP 最大トルク:320Nm@2200rpm
圧縮比:12:1 車両重量:3640kg (積載重量2000kg、車両総重量5750kg)
エンジン:ハイブリッドシステム搭載直列4気筒水素エンジン ベース車両:日野自動車製小型ハイブリッドトラック「デュトロ」



プレス発表会で
冒頭の挨拶に立つ
中村英夫学長

伊東明美
准教授



実車の解説および質疑応答には多くの報道陣が集まり、社会から高い関心が寄せられていることがうかがえます

学部横断的に受講可能な 2つの特別連続講義を開催

2010年度は、学部横断的に受講できる2つの特別連続講義を開催しました。都市生活学部主催の「交通と社会」(全6回)では、社会科学の視点から街と文化を創造する人材の育成を目指し、実社会で活躍中の4名の識者が講義を行いました。工学部都市工学科および緑土会(学科OB会)が主催した「海外建設事業-その現状と展望-」(全5回)は、卒業生を含む建設技術者により、海外プロジェクトの現状や今後の取り組み、課題などについての講演があり、いずれも多くの学生・教職員が受講しました。



協力関係にあった横浜市水道局と 連携・協力に関する基本協定を締結

東京都市大学と横浜市水道局は、2009年の「相模川における水質汚染物質の到達時間調査」の共同研究をはじめ、「横浜市水道局老朽管改良(耐震化)計画策定委員会」や「神奈川県内水道事業検討委員会」委員など継続して連携協力を行っています。2010年度は、相互の技術やノウハウを生かし、人材の育成や学術研究の向上および水道事業全体の発展に貢献することを目指し、連携・協力に関する基本協定を締結しました。



2011年2月14日に中村英夫学長と横浜市水道局の齋藤義孝局長が協定書を取り交わしました

東急グループ8社が連携協力し インターンシップの成果発表会を開催

東京都市大学では、キャリア教育や就職活動支援として、東急グループの一員であるスケールメリットを生かし、グループ各社との連携による長期インターンシップを推進しています。2010年11月17日、東急グループ8社での就業体験を積むインターンシップに参加した学生19名による成果発表会を世田谷キャンパスで開催しました。

当日はグループ各社の関係者に加え、多数の在学生が出席。学生発表では、各企業での研修内容やインターンシップで学んだこと、その経験を今後の大学生活でどのように活かしていくかという意気込みが語られました。

環境情報学部キャリア委員長の中原秀樹教授からは「大学では専門知識を学びますが、インターンシップを通じて実社会に触れることで、新たな疑問を持ち、それを解決しようという視点が生まれたことは大きな成果です」と総評が述べられました。



各人もしくは各グループでまとめた資料をもとに、一人ひとりがきめ細かなレポートを発表しました

文科省「大学生の就業力育成支援事業」に 本学の取り組みが採択

東京都市大学が取り組んでいる「専門性の高いキャリア形成教育の実践」が、文部科学省の2010年度「大学生の就業力育成支援事業」に採択されました。

文部科学省による「大学生の就業力育成支援事業」とは、大学・短期大学において大学内組織の有機的な連携による全学的な体制のもと、入学から卒業までの間、実学的専門教育を含む体系的な指導を行うことを通じて、学生の卒業後の社会的・職業的自立が図られるよう、国が大学の教育改革の取り組みを支援する

もので、441の大学などから申請があり、うち180件の取り組みが採択されました。

東京都市大学が同様の支援事業に認定されるのは2年連続。2009年度は「少数専門教育と『攻めのインターンシップ』による就職支援」が、文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」に採択されています。

本学では、長年にわたって培ってきた専門教育に重点を置きながら、キャリア教育の体制を構築し、学生個々のニーズに対応したキャリア形成支援の充実を図り、より幅広い職業人の育成を目指しています。

社会生活を学び将来を探る 「キャリア・スタディ」

中学3年生を対象とした「キャリア・スタディ」は、1年間を通じて社会生活を学び、将来を考えるプログラムです。企業の第一線で活躍している卒業生が仕事観や夢の実現を語る「TCU版夢先生」にはじまり、8月の企業研修や翌年3月の発表会まで複数回のプログラムを通じて、自分の将来について考え模索していきます。2010年度のキャリア模擬授業は「人を救う医療ロボットを作る～ものづくりに大切なこと～」など。

企業研修では、大成建設株式会社横浜支社の協力で「原宿交差点」の立体化工事の現場を取材しました。



ディベートでは肯定派と否定派に分かれ、自分の考えを述べ、反論せずに相手の矛盾を指摘することに挑戦しました

郵便局見学で学んだことを 「子どもゆうびん局」で再現

2011年2月25日、東京都市大学附属小学校では、体験学習の一環として2年生を対象にした「郵便局見学」を実施しました。成城郵便局の協力を受け、郵便局の仕事紹介をはじめ、郵便物の分別マシーンや郵便ポストの内部構造、配達の仕事など、様々な角度から「人の役に立つ仕事の仕組み」を学びました。見学する姿や説明を聞く姿勢、画板用紙に一生懸命メモをとる姿は本当にたくましく、児童たちの成長を感じることができました。この経験を生かし、翌週には2年生が中心となり校内で「子どもゆうびん局」を行いました。



赤い郵便ポストの前には説明を聞きました。郵便局に入るのは初めてという生徒も多く、集中して見学することができました

2010年6月開設の総合グラウンドとグループ校を結ぶシャトルバスがスタート

2010年6月24日に開設した「東京都市大学総合グラウンド」(東京都世田谷区鎌田)は、東急田園都市線二子玉川駅からバスで約5分の好立地にあります。

総合グラウンドは、東京都市大学グループの大学から幼稚園までの学生・生徒・児童・園児たちが、健康と体力の増進と、様々な教育活動を展開し学校生活の充実を図る場として、グループ各校の授業やクラブ活動、交流試合などで用いられています。

2011年2月には、グループ各校とグラウンドを結ぶシャトルバスを導入し、ますますの利用が期待されています。



【施設概要】 野球場1面(両翼90m、中堅100m)、テニスコート4面、多目的グラウンド1(テニスコート9面としての利用も可能)、クラブハウス2棟(第1:2階建440㎡、第2:平屋510㎡) 【敷地面積】26,901㎡(公簿面積) 【所在地】東京都世田谷区鎌田1-16-1
スクールライフの充実を後押しする白地に都市大ブルーのカラーが鮮やかなシャトルバスです

世田谷キャンパスに新1号館を建築中 理想的な教育環境の充実を目指す

東京都市大学では、世田谷キャンパス再整備事業の一環として、延床面積約15,000㎡、地下1階、地上4階建ての新校舎を新築します。設計コンセプトは「環境配慮型総合教室・学生支援センター複合施設」。学習・生活支援やキャリア支援を中心としたエリア、教室や研究室などをゾーニングすることで安心、安全で効率的な施設利用を図ります。



新1号館の完成イメージ。自然換気システムによる通風や外付ブラインドによって、空調エネルギーの負荷を軽減。水蓄熱利用の空調施設に加え、屋上・壁面緑化などを予定しています
【建物構造】RC造一部S造 地上4階・地下1階 【敷地面積】23,971.57㎡ 【建築面積】3,500㎡ 【延床面積】15,000㎡

「共学部」の新設を機に第2校舎を新築 多彩な教育環境に対応した施設設備が完成

東京都市大学等々力中学校・高等学校は、2010年4月の共学部新設に伴い、校舎の新築、体育館等の改修、人工芝グラウンドの導入など、多彩な教育環境に対応する施設に生まれ変わりました。生徒間の連携強化のために設けたオープンスペースをはじめ、生徒と教員の交流促進を意図したサテライト教員室などが設けられています。



1階には物理・化学・生物の実験室や家庭科室、技術科室などを設け、2~4階には教室やサテライト教員室、屋上菜園なども配置しています
【建物構造】RC造地上5階 【敷地面積】11,064.09㎡ 【建築面積】1,673.10㎡ 【延床面積】6,320.63㎡

Column

東京都市大学

人工的に再現する野生生物の棲家 ビオトープを横浜キャンパスの中庭に造成

東京都市大学環境情報学部のある横浜キャンパスでは、人と自然の共生を強く意識したエコ・キャンパス構想を掲げています。TCU横浜祭では「環境」「情報」「国際」「地域」といったキーワードに基づいて様々な取り組みをアピールしています。2009年には田中章研究室と東邦レオ株式会社が共同開発したビオトープ・システムがエコプロダクツ大賞を受賞しました。

ビオトープとは生物群集の生息空間を示す言葉です。田中章教授のテーマは「急速に失われつつある自然の生態系を回復すること」。そのための調査からプランニング、デザイン、評価手法の確立、政策や法

制度、国際的な環境協力に至るまで精力的な研究・啓発活動に取り組んでいます。

2010年3月には、横浜キャンパスの中庭に開発したビオトープ・システムの見本となる3m×36mのモデルを造成。カルガモやアズマヒギエル、ギンヤンマなど、最近の都会ではなかなか見ることのできない16種の生物が確認されています。水中の生物も豊富で、植物は約30種が生育しています。



12季ぶり！ 野球部が 北信越地区高校野球県大会で優勝

東京都市大学塩尻高等学校野球部が第123回秋季北信越地区高等学校野球長野県大会で優勝しました。2010年10月10日、長野オリンピックスタジアムで行われた佐久長聖高等学校との決勝戦では、先発した津山拓海さんの制球が冴え、相手に一度も三塁を踏ませず完封。打線は8回、9回に長打が出て連続得点を上げ2-0で勝利を飾りました。まさに、選手一人ひとりの成長が結実した試合運びでした。2004年の秋季大会以来、12季ぶりの優勝を勝ち取ったことで、夏の全国高等学校選手権大会出場に向け、大きな手応えをつかむことができました。



新人戦5試合すべてで2-0のストレート勝ち 創部2年目の女子バレー部が県大会初優勝

2011年1月23日に行われた長野県高等学校新人体育大会バレーボール競技大会決勝戦で、東京都市大学塩尻高等学校女子バレーボール部が松商学園高等学校を相手に2-0と快勝。新人戦ながら、創部2年目で長野県大会初優勝を成し遂げました。

2011年2月11日から始まった第11回北信越高等学校新人バレーボール大会では、北信越3位と健闘を見せました。新戦力も加わり、強豪校としての地位を築きつつあります。



サイド攻撃を生きし、サッカー一部が 長野県新人大会で6年ぶり2度目の制覇

2010年11月29日、東京都市大学塩尻高等学校サッカー部が、2010年度長野県高等学校新人体育大会サッカー競技大会で優勝を果たしました。上田西高等学校との決勝戦は、終始優勢のまま2-0と圧倒。前半開始直後のコーナーキックで先制点を決めゲームの主導権を握り、後半には相手ディフェンスラインを突破し、鮮やかにゴールを決めました。全国高等学校選手権大会や高校総体に向け、弾みのつく結果となりました。



Close Up!

東京都市大学等々力中学校・高等学校

舞チア部が準優勝に輝く

2011年5月7日に延期開催された「USA Spirit Nationals in Japan 2011」で、東京都市大学等々力中学校・高等学校の舞チア部「The Sparklers A」が準優勝に輝きました。昨年に引き続き、チアリーディング部門高校編成レベル5での2位入賞。世界大会への切符こそ逃しましたが、次のステップに向け今後も鍛錬を続けていきます。



東京都市大学付属中学校・高等学校

東京都統計グラフコンクールで入賞

2010年9月17日、「東京都統計グラフコンクール」のパソコン統計グラフの部で、東京都市大学付属高等学校1年生が入賞しました。このコンクールには、情報授業の一環として付属高等学校1年生全員が応募。澁谷朔さんの「二十一世紀のエネルギー ～原子力発電～」は東京私立中学高等学校協会会長賞を受賞。大室綾亮さんの「働きすぎに注意!!」が佳作に選ばれました。



東京都市大学付属中学校・高等学校

フラッグフットボール部関東大会へ

2010年6月6日に行われたフラッグフットボール・春期オープントーナメントジュニア関東地区予選大会で、東京都市大学付属中学校（チーム名：GULLWINGS）が2年連続の優勝を果たしました。決勝戦は麻布中学校に競り勝ち、26-19で勝利。この競技はアメリカンフットボールをもとに考案されたスポーツで、腰に付けたフラッグを奪うとタックルが成立する特徴的なルールがあります。



東京都市大学

Formula student World Ranking 22位

第8回全日本学生フォーミュラ大会で、東京都市大学チーム（チーム名：Mi-Tech Racing）が総合4位に入賞しました。国内75、海外10、合計85チームがエントリーする中、昨年の総合6位を上回る総合4位で走破しました。また、スキッドパッド競技賞では見事に1位を獲得。大会終了後の9月11日に公表された世界ランキングでは22位（470チーム以上がランキング）へと急浮上しています。

「PaPeRo」を使って5年生が寸劇を制作

東京都市大学付属小学校ロボットクラブでは、NECのコミュニケーションロボット「PaPeRo（パペロ）」を使ったグループ・ワークショップを中心に活動しています。2010年度は、PaPeRoを使って約1分間の寸劇映像を制作しました。この活動は、東京都市大学の小池星多研究室がNECと取り組んでいる共同研究「共創プロセス」の一環で、2009年から続いています。同研究室では、小学生にリアルな場としてのワークショップとWebサイトを提供しており、生徒たちの共創活動を通じて「共創環境のデザイン」について考察しています。



クラブメンバーの5年生10名が3つのグループに分かれ、小池研究室に所属する大学生のサポートを受けて映像制作を行いました。寸劇のアイデアから絵コンテ制作、制御プログラムまでを小学生が作ります

未来の自分を探る出張講座が開講

2011年3月11日、東京都市大学塩尻高等学校では、東京都市大学をはじめとした複数機関から講師を招き、出張講座を開講しました。最先端の研究についての紹介を中心に、進路選択に役立つ講座など16分野18講座を用意。東京都市大学からは工学部、知識工学部、環境情報学部、都市生活学部、人間科学部が講座を開設し、生徒たちは将来を考えるにあたり、未知なるテーマに挑み、良い刺激を得ました。そのほかにも「競技用ロボットのしくみ」「デザインについて考えよう」「法律を勉強することの意味」などの講座を通じて、多くのことを学びました。

東京都市大学が開講した講座一覧

リニアモーターカーの技術
(工学部電気電子工学科)

分子がつくる自然のふしぎ
～身近な物質のなぞにせまる～
(知識工学部自然科学科)

分かりやすい情報、わかりにくい情報
(環境情報学部情報メディア学科)

住宅シミュレーションソフトで
理想の住まいをつくらう
(都市生活学部都市生活学科)

子どもと環境、保育者という仕事について
(人間科学部児童学科)



小中学生が驚きと喜びで大興奮した科学体験教室

2010年8月7日、世田谷キャンパスでは、小中学生を対象に科学の面白さや大切さが体験できる「第9回大学で楽しもう!! 小学生・中学生のための科学体験教室」を開催しました。「マイナス200℃の世界」「水ロケットを作って飛ばそう」など東京都市大学ならではの60テーマの体験教室を設け、2600名以上の参加者に楽しんでいただきました。



8年目の「渋谷コロキウム」(公開講演と対話)

2004年にスタートした「渋谷コロキウム」は、現代社会における問題や話題などをテーマに東京都市大学が東急グループの各企業と連携を図りながら、大学の持つ知的資源を地域社会へ提供するための取り組みです。2010年度は「光文化と都市」「PFI/PPP：官民協同による公共サービスの効率化」「絵本と伝承あそびで子育て」など4つのテーマで開催しました。



約14万人が利用 子育て支援センター「ぴっぴ」

東京都市大学等々力キャンパスの子育て支援センター「ぴっぴ」は、乳幼児(就学前の児童)と保護者が一緒に安心して過ごすための遊ぶ場であり、保育と子育てを学ぶ学生(人間科学部児童学科)の日常的な研修の場としても利用されています。2004年の開設から7年間の延べ利用者数は約14万人。子どもたちにとっては楽しい場所であり、保護者には子育てを通じたコミュニケーションの場となっています。



環境情報学部が横浜市都筑区との連携研究

東京都市大学環境情報学部と横浜市都筑区は2000年度から様々な連携協力活動を行っており、2003年度からは「地域連携調査研究発表会」を毎年開催。学生が地域課題に関する論文を発表しています。2010年度は環境分野、情報分野、まちづくりなど12テーマの研究結果を発表。2010年2月には連携協定を締結し、都筑区の街の記憶と歴史を残し引き継ぐ「デジタルアーカイブ事業」を展開しています。



国際シンポジウム 男女共同参画社会における女性研究者のエンパワーメント

2010年10月8日、東京都市大学では国際シンポジウム「男女共同参画社会における女性研究者のエンパワーメント ～国内外の研究環境の比較～」を開催しました。このシンポジウムは、文部科学省の2009年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」プログラムとして採択された「工学系イノベーションの男女参画モデル」事業の一環です。東京都市大学環境情報学部小堀洋美教授、米国オレゴン大学ジェラルディン・リッチモンド教授、韓国科学技術女子連合会ミン・ピョンジュ会長、文部科学省科学技術政策研究所牧慎一郎企画課長をパネリストに招きました。



ニュージーランドのカンタベリー大学ゲイル・ギロン副学長の基調講演で始まった国際シンポジウム。参加者は熱心に聴き入っていました

倉田薫子講師がガラパゴス諸島で海外研究

東京都市大学知識工学部自然科学科の倉田薫子講師は、形態やDNA情報をもとに植物の進化や生態を研究しています。その手法はフィールド調査と分子実験を組み合わせたもの。これまでにボルネオやニューカレドニア、ハワイ島などで調査研究に取り組んできました。2010年9月から2011年8月までの1年間、本人の曾孫奨学基金の支援を受けダーウィンの『進化論』で有名なエクアドル共和国ガラパゴス諸島のチャールズダーウィン研究所で研究を行っています。この島は特殊な環境に適応した多くの固有種が存在するため「進化の実験室」とも呼ばれています。



ガラパゴス諸島は「特殊な生物」の宝庫です。例えば、左上写真のウツボカズラ（ボルネオ島で撮影）は、貧栄養環境に適応進化した植物の代表格です。こういった特殊な生物が、なぜ、どのようにして生まれたのかが倉田講師の研究テーマです

米国ハーバード大学での海外語学研修

2010年7月26日から8月8日の約2週間、東京都市大学等々力高等学校では、米国ハーバード大学での海外語学研修を実施しました。大学の講義や現地学生との交流を機に、生徒たちの語学へのモチベーションが高まりました。また、高校1年生は2011年実施の英国オックスフォード語学研修に備え、国内においてパブリックスクール研修を実施しました。



韓国の幼稚園長など約30名の研修団が来園

2010年10月、韓国の幼稚園長ら約30名が来日し、東京都市大学二子幼稚園を視察しました。波田野久美子園長は、遊びを通して幼児期から五感を育てる教育を紹介。韓国では教室内の授業が中心であり、子どもたちに「生きる力」を養わせる東京都市大学二子幼稚園の教育方針に興味を尽きない様子でした。防犯性と安全性に優れた園舎にも注目が集まりました。



東日本大震災 発生当時の状況とその後の対応について

2011年3月11日14時46分頃に発生した東日本大震災において被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

地震発生時、東京都市大学では250名以上の学生が、高校以下の学校では150名以上の生徒・児童が在籍していましたが、速やかに安全を確保することができました。これらの学生・生徒らは、首都圏の交通機関の多くが運行停止したことに伴い、教職員150名とともに各校で宿泊しました。保護者への連絡は、緊急連絡網の活用や各学校のウェブサイトによる情報発信により、混乱を防ぐことができました。東京都市大学二子幼稚園では、園児はすでに全員帰宅しており、安全が確認されました。東京都市大学塩尻高等学校では公

共交通機関の乱れはありましたが、被害はありませんでした。

今回の震災を鑑み、東京都市大学では学位授与式の式典などを中止し、その経費の一部と都市大グループの教職員、学生、生徒、児童らが任意で集めた募金をまとめ、義援金（総額2,289,420円）として、日本赤十字社に2011年5月27日に寄付いたしました。

被害を受けた学生・生徒たちに対しては、学修の機会を維持できるよう、状況に応じて学費免除などの緊急支援を実施しております。

大学の施設設備において、軽微な損傷はありましたが構造体として問題はなく、適切な補修を随時実施し使用を再開しています。節電対策は、建物内の消灯や空調機設定の変更、設備や機器の一部停止などにより、ピーク時の消費電力15%削減を実施いたします。

(旧武蔵工業大学)

高度な専門性を持つ人材を育成する、個性ある総合大学



新たな形の総合大学として誕生してから2年が経過し、東京都市大学という名称とともに、特徴ある教育・研究内容も広く認知されるようになりました。しかし、本学の教育改革はこれで完成ではありません。さらなる改組も視野に入れ、都市大ブランドの向上に努めていきます。



中村 英夫 学長

■教職員数 761名 ■学生数 7846名(大学7112名、大学院734名)
 ■開設年 1929(昭和4)年
 ■所在地
 世田谷キャンパス 〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1 TEL. 03-5707-0104
 横浜キャンパス 〒224-8551 神奈川県横浜市都筑区牛久保西 3-3-1 TEL. 045-910-0104
 等々力キャンパス 〒158-8586 東京都世田谷区等々力 8-9-18 TEL. 03-5760-0104
 *教職員数、学生数は、2011(平成23)年5月1日現在 *教職員数は非常勤教職員を含む

世田谷キャンパスの充実

2009年4月、「東京都市大学」と名称を変更して以来、「きわめて専門性の高い都市型大学」にふさわしい教育体制の整備を進めてきました。2009年には都市生活学部と人間科学部という2つの学部を新設し、理工系、文理複合系、文系で構成される新しい形の総合大学としての存在感を高めています。2013年度の新学部・学科開設に向けて、改組の計画も検討しているところです。

教育体制を整えると同時に、世田谷キャンパスの再整備事業を推進してきました。2009年には生体医工学科の拠点となる新2号館を竣工し、現在、2013年竣工の予定で新1号館を建設中です。新1号館は「環境配慮型総合教室・学生支援センター複合施設」を設計コンセプトとし、延床面積約15,000㎡の施設内に学生支援エリア、教室エリア、研究室エリア、事務室エリアを配し、教育研究環境の向上を担う中核的な施設となります。

2学部の志願者数が増加

東京都市大学として初めて実施した2009年度の入試に続き、2010年度の入試でも2年連続で総志願者数は大幅に増加しました。2011年度の入試では、全国的な志願者数の減少傾向もあって本学では学部ごとに違いが見られました。

環境情報学部の志願者は298名増加

(前年比111.9%)、人間科学部は167名(前年比136.3%)と増加しています。一方で工学部が前年比93.5%、知識工学部が前年比89.9%、都市生活学部が前年比94.7%となったため、大学全体では微減という結果になりました。知識工学部の減少については、2010年度の志願者数が大幅に増加し、志願者倍率がアップした反動ではないかと推測されます。

安心・安全につながる研究の発展

研究面では、環境、エネルギー、都市問題、情報といった分野で強みを発揮しています。

環境・エネルギー分野では、30年以上にわたって水素燃料エンジンを搭載した自動車の研究に取り組んでおり、2009年4月には水素燃料エンジン搭載バスによる国内初の公道走行を実現しました。

この研究はさらに発展を遂げ、2010年11月、水素エンジンとモーターを動力源とする水素ハイブリッドトラックの開発にも成功しました。今後は、安全性のさらなる追求や地域内での配送、福祉目的での活用など、幅広い分野と連携しつつ実用化に向けての研究を進めていきます。

総合研究所シリコンナノ科学研究センターでは、高効率で発光する電流注入型の発光デバイスの開発にも成功し、2010年5月にプレス発表を行いました。この研究成果により、実現困難といわれていた

シリコンレーザーの実現可能性が高まり、電気よりも極めて消費電力が少ない光による信号伝達の実用化に向けても、大きな一歩を踏み出すことになりました。

外国語教育のさらなる強化

グローバル社会に求められるリーダーの育成を目指して全学教務委員会と外国語共通センターが中心となり、英語エリート教育の強化プログラムを準備中です。英語のほか、中国語やアラビア語、韓国語など、社会的にニーズの高い言語を第一外国語に取り入れ、卒業後の海外での活動につながる能力を持てる教育にしたいと考えています。

加えて、学生が積極的に海外に出ることをサポートする方法の一つとして、海外留学の旅費を貸与する制度を実施しています。大学や語学学校への海外留学に限らず、学生独自のフィールドワークやボランティア活動なども含め、幅広い海外体験を促すのが狙いです。

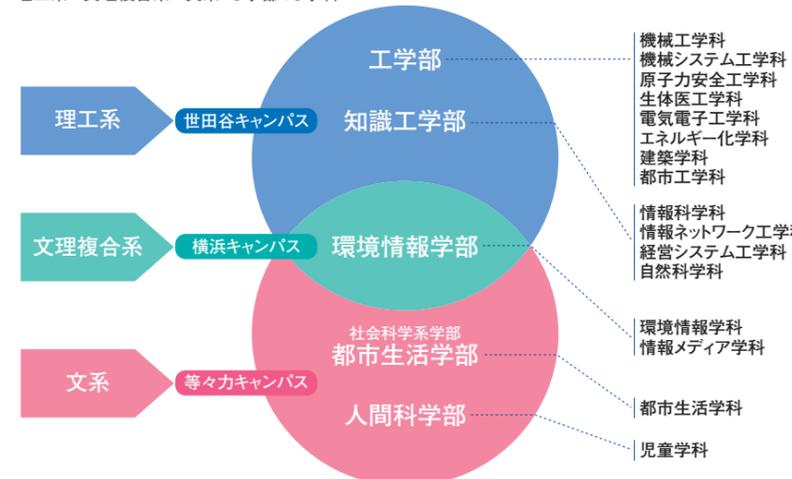
これらの取り組みは、2012年度の実現に向けてさらに検討を進めています。

他大学との連携を推進

2010年4月に開設した早稲田大学との共同大学院「共同原子力専攻」は、交通の便の良い五島育英会ビル渋谷サテライトクラスで開講しています。2010年12月には「未来エネルギーフォーラム」を

東京都市大学の学部構成

理工系・文理複合系・文系 5学部16学科



機械工学科
機械システム工学科
原子力安全工学科
生体医工学科
電気電子工学科
エネルギー化学科
建築学科
都市工学科

情報科学科
情報ネットワーク工学科
経営システム工学科
自然科学科

環境情報学科
情報メディア学科

都市生活学科

児童学科



サクラセンター(世田谷キャンパス)



図書館(世田谷キャンパス)

■ウェブサイト <http://www.tcu.ac.jp>



特に注力したのが単位認定型のインターンシップで、東急グループの8社で19名の学部学生がインターンシップに参加し

ました。2011年度はさらに受け入れ企業を増やし、より具体的な形で学生の就業意欲向上をサポートします。

2010年度の事業実績

区分	事業	概要
教育活動	教育体制	・2010年4月、早稲田大学との共同大学院「共同原子力専攻」を開設。 「東京都市大学渋谷サテライトクラス」を、五島育英会ビルに開設 ・学生19名が東急グループ企業8社のインターンシップに参加 ・英語以外の第一外国語の教育カリキュラムの2012年度実施に向け検討開始
	学生支援	・五島育英会基金を大学院生、学部生の61名に給費 ・海外研修資金の貸与制度により、海外での学会・研修などに参加するための費用捻出が困難な学生を支援 ・(株)オリエントコーポレーションおよび(株)ジャックスとの提携教育ローンを導入
	採択事業	・2010年度文部科学省と経済産業省「原子力人材育成プログラム」に「総合的・実践的教育のためのカリキュラム開発及び実験実習等」が採択 ・2010年度文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に「専門性の高いキャリア形成教育の実践」が採択
研究活動	実施事業	・研究者情報データベース(http://www.risys.gl.tcu.ac.jp)を公開 ・2010年10月、国際シンポジウム「男女共同参画社会における女性研究者のエンパワーメント」を開催 ・総合研究所シリコンナノ科学研究センターが、シリコンをベースとした電流注入型の発光デバイスの開発に成功。総合研究所でプレス発表会を開催 ・2010年11月、水素ハイブリッドトラックの開発に成功。世田谷キャンパスでプレス発表会を開催
	産官学連携	・山形県酒田観光物産協会と連携し、山形県の庄内柿をテーマにした商品を開発 ・横浜市水道局と連携・協力に関する基本協定を締結
社会貢献	地域交流	・小学生・中学生のための科学体験教室を開催 ・中学生によるバッテリーカーコンテストを開催 ・図書館企画展「電車とまち～東急電車にみる 走る・運ぶ・展(ひらく)～」(協賛:東京急行電鉄(株)、東急車輛製造(株))を開催
	フォーラム・公開講座等	・渋谷コロキウム(公開講演と対話)を開催(年4回) ・環境情報学部市民講座を開催 ・2010年6月、東京都市大学と中国科学建築研究所、建築研究所が「太陽熱利用に関する国際シンポジウム」を開催 ・2010年12月、未来エネルギーフォーラムを開催 ・2011年1月、「レアアース-ハイテク産業を支える希少な資源と稀有な性質」をテーマとした特別講演会を開催
国際交流	フィールドワーク	・ネパール環境フィールド研修を実施 ・オーストラリア熱帯雨林復元フィールド研修を実施 ・日中共同沙漠緑化フィールド研修を実施 ・フィジー諸島における自然体験実習を実施 ・ボルネオ島自然体験実習を実施 ・「世界の都市」ヨーロッパ編フィールドワークを実施 ・ハワイ火山見学を実施 ・ニュージーランド幼児教育研修を実施
第三者評価	大学基金協会大学評価	・大学基準協会の定める大学基準に適合していると認定(認定期間は2010年4月1日から2017年3月31日までの7年間)
広報活動	実施事業	・2010年8月、オープンキャンパスを3キャンパスで同時開催 ・エコプロダクツ2010に環境情報学部が出展
施設設備	第1号館起工(世田谷キャンパス)	・RC造・一部S造、地上4階・地下1階(工期:2010年11月16日～竣工予定2013年12月26日)
高大連携		・模擬授業、出張授業、見学会を実施 ・東京都市大学と付属の3高校における単位認定に関する制度の導入を検討(2011年4月から導入)

東京都市大学 付属中学校・高等学校

TOKYO CITY UNIVERSITY JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL

(旧武蔵工業大学付属中学校・高等学校)

中高一貫の男子進学校としての教育方針が浸透



中高完全一貫教育の確立に向けて着実に歩みを進め、男子進学校としての認知度も向上しています。生徒たちの能力を最大限に生かす教育を進めてきた結果が難関大学への高い合格率に表れています。今後はキャリア教育にも一層力を注ぎ、学習意欲の高い生徒の育成を目指します。



五十嵐 勲 校長

- 教職員数 124名
- 生徒数 1441名(中学校745名、高等学校696名)
- 開設年 中学校1956(昭和31)年、高等学校1951(昭和26)年
- 所在地 〒157-8560 東京都世田谷区成城1-13-1
TEL. 03-3415-0104

*教職員数、生徒数は、2011(平成23)年5月1日現在 *教職員数は非常勤教職員を含む

都内男子校でトップの志願者数

中高6年間一貫教育の実現を目指し、2010年度から中学入試のみ募集を行っています。

2011年度の入試では、定員240名に対して3692名の志願者が集まりました。この数字は大幅増を果たした2010年度と比較しても約10%上昇しており、2年連続の増加となりました。実質倍率も前年と同じ3.0%を維持。首都圏全体の受験者数が減少する中、都内の男子校で第1位の志願者数となっています。

「キャリア・スタディ」をはじめとした特徴ある教育カリキュラムの整備も積極的に推進してきました。そのうえで、本校の強みである理科教育をさらに強化しつつ、幅広い教科での学力向上を目指しています。

進路部学習グループを設置

2010年度には、学力推進本部の活動を継続・発展させ、新たに「進路部学習グループ」を設置しました。中学3年生と高校1年生から3年生では習熟度別クラス編成を導入していますが、それと並行して基礎学力向上に向けた仕組みづくりの中心的な役割を果たします。メンバーは各学年から1名が担当となり、分析データの充実や新たな試験の検討、補習や学習合宿などを実施していきます。

一方、様々な学問分野への興味を広げ、

学習へのモチベーションを高めるために各大学の専門家を招へいた模擬授業なども開講しています。一例を挙げると、東京大学宇宙線研究所の教員による素粒子物理に関する講義、一橋大学の教員によるファイナンスに関する講義などがあり、生徒たちは通常の授業では味わえないような専門分野に触れ、刺激を受けています。

難関大学合格者数も増加

2009年に中高一貫の男子進学校としての新体制を導入して以来、きめ細かな進路指導や学習サポートの成果が表れ、難関大学への合格実績は増加し続けています。

2010年度の進学実績は東京都市大学への合格者が110名で、国公立大学には35名が合格しています。私立では、早慶上理(早稲田・慶應義塾・上智・東京理科)、GMARCH(学習院・明治・青山学院・立教・中央・法政)合わせて200名以上が合格しており、こちらも前年を大きく上回

っています。医歯薬系を含む有名大学からの推薦入学指定校枠も年々充実してきており、教育関係者の間でも本校の進学校としての評価が高まっているのを実感しています。

■ウェブサイト <http://www.tcu-jsh.ed.jp/>



キャリア・スタディの一貫として、中学3年生が大成建設横浜支店を訪問。原宿交差点の立体化工事を見学しました

2010年度の事業実績

区分	事業	概要
教育活動	一貫教育	・中高6カ年完全一貫教育に向け、2010年度から高校募集を停止
	カリキュラム	・中学3年生対象の「キャリア・スタディ」の充実を目指し、同窓会との連携を強化する
	学習システムの構築	・進路部学習グループを設置し、学習プログラムの改善を図る ・生徒による授業アンケート実施(年間2回)
課外活動	中学	・各種試験データ結果を分析し、学習到達状況と課題を明確化する ・中学1年生が、「ロボカップ2010シンガポール世界大会」の出場メンバーに選出 ・中学少林寺拳法部が全国大会に出場
	高校	・高校アイスホッケー部、高校陸上競技部が関東大会に出場
広報活動	説明会	・過去問チャレンジ、イブニング説明会、入試説明会などを実施
	その他	・広報誌「スタートライン」を発行

東京都市大学 等々力中学校・高等学校

TOKYO CITY UNIVERSITY TODOROKI JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL

(旧東横学園中学校・高等学校)

「ノブレス・オブリージュ」に基づき、自学自習を徹底



2010年4月に開設した共学部は、多くの保護者の方から理解をいただき、よいスタートを切ることができました。「システム4A」「システムLip」といった学力改革の効果も見え始め、2010年度に完成した新校舎で、中高一貫の進学校としての価値を高めていきたいと考えています。



海老原 大樹 校長

- 教職員数 97名
- 生徒数 1013名(中学校376名、高等学校637名)
- 開設年 中学校1947(昭和22)年、高等学校1948(昭和23)年
- 所在地 〒158-0082 東京都世田谷区等々力8-10-1
TEL. 03-5962-0104

*教職員数、生徒数は、2011(平成23)年5月1日現在 *教職員数は非常勤教職員を含む

共学の中高一貫校体制がスタート

2010年4月から女子部と共存する形で共学部がスタートし、「ノブレス・オブリージュ」「グローバルリーダーを育成する」という本学独自の理念に基づいた学力向上と人格教育に取り組んでいます。

本校の取り組みに関心を寄せる保護者の方は多く、2010年に開催した3回の学校説明会は予約開始から間もなく定員に達し、会場を変更して体育館で開催し、同時にインターネットで動画中継するなど対応しました。また、2011年度の中学入試を3回開催とした効果もあり、志願者数は延べ3377名、実質倍率は4.6倍にのびりました。

一方で、伝統ある女子部については2011年度から募集を停止し、共学部に一本化することとなりました。女子部在校生に対しては伝統的な女子教育を継承し、きめ細かな教育および進路指導を卒業するまで行っていきます。

「自学自習」を促す仕組み

2010年8月に完成した新校舎では、オープンスペースや自習スペースを充実させました。その効果は早速表れており、2010年4月の調査以来、1日に100名もの生徒が自習室を利用しています。そのベースにあるのが、授業の達成度をその日のうちに確認して個別指導を行う「システム4A」、読解力とプレゼンター

ション能力を磨くための「システムLip」という2つの学習支援システムです。これらのシステムを導入して1年が経過しましたが、生徒自らが学ぼうとする意欲は着実に育っていると実感しています。

生徒の意欲に応えるため、2010年から授業をビデオで録画して教員同士で内容を検討する勉強会を実施しています。

さらに進む学力革命

2010年には新たなプログラムとして、海外研修がスタートしました。初年度となる2010年には、共学部高校1、2年生の希望者が米国ハーバード大学で寮生活を送りながら、語学研修やハーバード大学生との交流を体験しました。高校2年生全員が参加する海外研修では、英国オックスフォード大学を訪問する予定です。

また、2011年度からはさらなる教育力の向上を目標に、英語、数学、理科の教

員を増やし、特別講座や塾・予備校主催の講座なども実施していきます。

■ウェブサイト <http://www.tcu-todoroki.ed.jp/>



2010年10月、女子部・共学部合同の「藍桐祭」を開催しました。チアリーディングや和太鼓演奏など、生徒たちの完成度の高いパフォーマンスに、大きな歓声が上がりました

2010年度の事業実績

区分	事業	概要
教育活動	教育体制	・2010年4月、共学部が開設 ・学習システム「システム4A」「システムLip」の導入 ・2011年度女子部募集停止、共学部一本化の準備
	英語学習	・米国ハーバード大学での海外語学研修を2010年7月26日～8月8日までの2週間で実施 ・2010年10月、ブリティッシュ・ヘルズでの国内留学を実施
	芸術鑑賞会	・サントリーホールにてウィーン・フィルハーモニー管弦楽団による演奏会を鑑賞
	学習システムの構築	・教員の授業勉強会や研修会の実施 ・校内データ管理システム構築の検討
課外活動		・舞チア部が「USA Regional Competitions 2010 神奈川県大会」2位に入賞、「USA Nationals 全国大会」出場
広報活動	学校説明会	・学校説明会、サテライト・イベント説明会、新校舎見学会を実施
施設・設備	新校舎竣工	・2010年8月、新校舎竣工。 学習支援センターやストラテジー・インフォメーション・センター(SIC)の設置
	その他	・第一校舎、体育館改修

進学・就職ともに生徒の可能性を拓く「総合高校」



校名変更3年目を迎えた「都市大塩尻高」は、女子生徒を含めた生徒数が増え、活気に満ちています。進学のための学習指導を充実させつつ、部活動に励む生徒たちも応援。さらに資格取得を支援することで就職志望の生徒をバックアップするなど、「総合高校」として成長しています。



河西 靖男 校長

- 教職員数 77名
- 生徒数 811名
- 開設年 1956(昭和31)年
- 所在地 〒399-0703 長野県塩尻市広丘高出2081
TEL. 0263-88-0104

*教職員数、生徒数は、2011(平成23)年5月1日現在 *教職員数は非常勤教職員を含む

女子生徒の人気継続、生徒数も増加

都市大グループとなって3年目となる2011年度の入試では、普通科で601名、総合工学科で305名の志願者がありました。なお自動車科は、2011年度から生徒募集を停止しています。

2010年度に引き続き、女子生徒の人気が高く、各学年に女子生徒が100名程度まで増えました。今後は部活動の充実や施設・設備環境の整備と同時に、東京都市大学の女性研究者支援室(SOFERS)と連携して、女子生徒のためのキャリア教育なども行っていく予定です。

ますます活発になる課外活動

多くの運動部が目覚ましい活躍を見せています。2010年度は、野球部が第123回秋季北信越地区高等学校野球県大会で優勝、サッカー部が新人体育大会サッカー競技優勝、空手道部が高校総体県大会団体組手・団体形ともに優勝、個人組手でも優勝し、インターハイ出場を果たしています。

女子バレーボール部は創部2年目でありながら、高校総体県大会で第3位、第63回全日本バレーボール高等学校選手権大会で準優勝という素晴らしい成績を収めました。

2010年に新設したダンス部が好評なのを受けて、2011年には合唱同好会、弓道同好会も創設する予定です。運動部

系・文化部系ともに幅広い選択肢を用意し、生徒が豊かな高校生活を過ごせるよう、積極的に支援しています。

進学実績向上を目指す取り組み

2010年度卒業生のうち大学、短期大学、専門学校への進学者は、東京都市大学に進学した16名を含め97名でした。また就職環境は、近年厳しさを増していますが、本校卒業生の就職内定率は前年同様100%という結果を残すことができました。

2011年度からは、進学実績を高めるための取り組みを強化することを決定しました。普通科の特別進学Zコースでは、新たな学習支援システムとして国公立大学を志望する生徒を対象とした「スーパーZプロジェクト」を実施します。塾・予備校と連携し、センター試験対策を中心に取り組んでいきます。さらに信州大学の現役学生チューターによる学習サポートなども組み合わせ、本校のきめ細

かなサポートで志望校合格を実現する体制を整えます。

■ウェブサイト <http://www.tcu-shiojiri.ed.jp/>



1年生を対象に学校見学会、会社見学会、ワークショップを開催しました。専門学校見学会では様々なコースの体験授業に参加しました。写真はトリマー実習の様子

2010年度の事業実績

区分	事業	概要
教育活動	進学サポート	・進学実績の向上を目指した学習支援システムの徹底
	キャリア教育	・学校見学会(東京都市大学、信州大学ほか)、企業見学、ワークショップの開催
地域連携		・長野県塩尻志学館高等学校との単位互換授業の実施
		・塩尻市内の小学生・保護者を対象とした「子ども自然教室」開催
		・まつもと広域ものづくりフェアで工作教室を実施
高大連携		・東京都市大学教員による模擬授業を実施 ・東京都市大学女性研究者支援室(SOFERS)との連携
課外活動		・野球部、サッカー部、空手道部、女子バレーボール部など多数の運動部系の部活動が全国レベルの活躍
施設設備		・実験実習棟PC教室のパソコンを更新

高い学力と豊かな心を持つ「気高きリーダー」を育成



本校では、有名中学受験を想定した学習指導はもちろん、様々な体験学習、芸術、体育などにより豊かな心を育む教育を推進しています。明るく楽しい校風の中、児童の自主自立を育み、保護者から信頼され、「気高きリーダーを育てる学校」として存在感を示せる学校を目指します。



重永 睦夫 校長

- 教職員数 34名
- 生徒数 475名
- 開設年 1956(昭和31)年
- 所在地 〒157-0066 東京都世田谷区成城 1-12-1
TEL. 03-3417-0104

*教職員数、生徒数は、2011(平成23)年5月1日現在 *教職員数は非常勤教職員を含む

小学生にわかる「建学の精神」を

本校の建学の精神は「すこやかに、かしこく、りりしく凛として、世界にはばたく、気高き子供たち」です。

都市大グループには、創立者五島慶太初代理事長の掲げた「建学の精神」が根付いていますが、小学生には難解であるという一面がありました。しかし、「気高きリーダーを育てる学校」という本校の教育目標は、建学の精神と深く結びついています。そのため、児童をはじめ保護者の方々にも理解してもらえるよう、小学生でもわかりやすい平易な文章で表し、2011年から正面玄関に掲示しています。

「名門校」としての認知向上

本校への志願者・受験者数は順調に伸びており、2010年度入試では22位だった東京都内の国立・私立小学校の入試倍率が、2011年度入試では男女合わせて16位まで躍進しました。

卒業後は4割の児童が、東京都市大学付属中学校または東京都市大学等々力中学校といったグループ校に進学し、残りの6割が有名中学校への進学を果たしています。中学受験に必要である高い学力を身に付けるためには、主要4教科の中学受験学力向上指導や高学年における算数の習熟度別授業などで着実に効果を上げてきました。

低学年は「体全体で学ぶ」、中学年は「共

に学ぶ」、高学年は「自ら学ぶ」が教育コンセプトです。学習や運動などの様々な場面で少し上のレベルに挑戦させる「背伸びの教育」を実践しています。こうした積み重ねが、豊かな心の基礎を固め、高い学力へ自ら挑戦することの原動力、モチベーション向上へとつながるものと期待しています。

三國シェフによる食育プログラム

2011年度からは、新たな教育カリキュラムとして、著名なフランス料理家である三國清三氏による食育プログラムがスタートしました。4年生を対象に月に1回行われるこのプログラムでは、味覚を知り、自分たちで野菜を育て、最終的には自分たちで育てた野菜を自ら調理して食べるまでを行います。世界的に活躍する三國氏から毎回直接指導を受けられるこのプログラムには、教職員一同も大きな期待を寄せています。

学習面では、低学年の英語学習を強化し、2012年度から4年生の林間学校を英語だけで過ごす取り組みを計画しています。

■ウェブサイト <http://tcu-elementary.ed.jp/>



5月には全学年で運動会を開催しました。伝統行事の6年生男子の組立て体操は、場内の大きな注目を集めました

■ 2010年度の事業実績

区分	事業	概要
教育活動	教育理念	・「建学の理念」を小学生にもわかりやすく新たに提示 ・教育目標、教育コンセプトの徹底
	学習指導	・教科部会の開催や教科研究の時間の確保などによる4教科の学力向上 ・習熟度別学習(算数)、特別学習(国語)、英語学習の充実 ・図書情報室、各教室の情報機器の有効活用のための継続した整備
グループ連携	学校間連携	・東京都市大学が開発した水素自動車の見学会を実施(水素燃料エンジンバスおよび水素ハイブリッドトラック試乗) ・東京都市大学環境情報学部の研究室と共同でパーソナルロボット「PaPeRo」を活用した取り組みを実施
広報活動	説明会	・個人別進学相談会、学校公開、学校説明会を実施
中期計画	食育プログラム	・「三國食育プロジェクト」2011年度実施準備
	国際教育	・英語教育の2012年度開始準備

東京都市大学 二子幼稚園

TOKYO CITY UNIVERSITY FUTAKO KINDERGARTEN

(旧東横学園二子幼稚園)

遊びを通じて「生活力」と「表現力」のある子どもに



幼稚園で過ごす3年間は、人格形成の基盤となる大切な時期です。遊びを中心とした様々な体験を通じて、子どもたちが「楽しい」と感じながら成長できるよう、一人ひとりと向き合いながら丁寧に保育しています。そして、集団生活の中で子どもたちの「生活力」「表現力」を育むことを目標としています。



波田野 久美子 園長

- 教職員数 12名
- 園児数 202名
- 開設年 1955(昭和30)年
- 所在地 〒158-0094 東京都世田谷区玉川2-17-10
TEL. 03-3708-0104

*教職員数、園児数は、2011(平成23)年5月1日現在 *教職員数は非常勤教職員を含む

一人ひとりと向き合う保育

2009年4月、東京都市大学二子幼稚園と名称が変わりましたが、半世紀以上にわたって培ってきた本園の基本方針や教育目標を礎に、幼児教育機関としての役割を果たしていこうと努めています。

人格形成の基礎となる幼稚園の3年間で、自分のことを自分でできる「生活力」、集団の中でも自分の思いを伝えられる「表現力」を身につけてほしいという考えのもと、遊びを中心とした豊かな生活体験を重視し、園児一人ひとりと丁寧に接しながら、きめ細やかな保育を心がけています。

その中で、自分たちが育てた野菜を収穫して調理する「食育」、付属小学校との連携など、2009年度から実施されている文部科学省の新教育要領に合わせた新たな試みの効果も見え始めています。

2010年度の進学状況は、付属小学校への進学が14名、2名が私立小学校に、5名が国立小学校に進学しました。

日韓両国の幼児教育交流も実施

教員の保育力のスキルアップを目標に、園内での研修に加えて外部研修も積極的に活用しています。例えば、教員自らが世田谷区や東京都私立幼稚園勉強会、教材会社が主催する研修会に参加するなど、継続的な取り組みを行いました。

2010年度からは、平日の休園日を利用

して、ほかの幼稚園や教育施設などを見学する研修制度を始めました。見学先は教員自身が交渉します。他園での取り組みや園児たちの様子を見ることは、今後の保育の参考になり、私たちの保育観や課題の再認識にもよい機会となります。

2010年10月には、韓国の幼稚園長など30名が来園し、授業参観や施設見学を行う交流会を実施しました。当日は、本園の特徴である遊びを中心にして五感を育てる教育の紹介や約3000冊の絵本を蔵書する図書室、高い防犯性と安全性を兼ね備えた園舎の見学後、教育観の違いなどについて意見交換し、私たちも大きな刺激を受けました。

保護者との信頼関係を築く

親子遠足や夕涼み会など園児と保護者が一緒に参加できるイベントも用意しています。子どもたちがどれだけ成長しているのか、集団の中ではどのような様子なのかを、触れ合いながら確認できるよい機会ともなっています。

保護者に安心してもらえるよう、年少・

年中組では各クラスに担任と副担任を配置、年長組は担任と2クラス全体で1名の副担任を配置しています。

保護者の方々とは定期的に個人面談を行うほか、積極的に園での様子を伝え、保護者との信頼関係を築いています。

■ウェブサイト <http://www.tcu-futako.ed.jp/>



本園の近くを流れる多摩川は、園児が自然に触れるよい環境を与えてくれます。兵庫島公園では、石の道を渡ったり、池の生き物を探したりして遊んでいます

■ 2010年度の事業実績

区分	事業	概要
教育活動	教育内容の充実	・子どもたちの成長に必要な環境づくりの実施 ・移動動物園、野菜作りや季節の行事などの体験学習を実施 ・年少・年中組にはクラス担任と副担任を配置。年長組は担任と全体で1名の副担任を配置
	教育研修	・外部団体などで行われる研究会や研修会などに参加
	日韓交流	・韓国教員大学校長資格海外研修団が来園し交流会を実施
広報活動	説明会	・公開保育・説明会を実施 ・私立幼稚園フェスタ2010に出展

東京都市大学

中高生が競う「バッテリーカーコンテスト」

2010年8月28日、東京都市大学は、中学生高校生を対象にした「バッテリーカーコンテスト2010-手作り電気自動車でエコに走ろう!」を開催しました。コンテストでは、主に中学生・



高校生がチームで製作した「電気自動車」に規定のバッテリーを搭載し、2時間という規定時間の走行距離を競います。東京都市大学付属中学校・高等学校と東京都市大学塩尻高等学校からも参戦し、塩尻高等学校が13位と善戦しました。

図書館企画展から技術発展と地域を振り返る

東京都市大学図書館では、企画展をはじめ学生選書ツアーやマガジン・ブックリサイクルなど様々なイベントが好評です。第2回企画展「電車とまち～東急電車にみる 走る・運ぶ・展(ひらく)～(期間:2010年7月26日～10月2日)は、東急電車の技術の変遷と沿線の街の発展を結びつける企画展で、多くの来場者から関心を集めました。



東京都市大学付属中学校・高等学校

地域清掃を通じて成城の街に恩返し

東京都市大学付属中学校・高等学校では、普段お世話になっている世田谷区成城の街への恩返しの意味も込めて、通学路を中心にした放課後のボランティア清掃を行っています。2010年度も生徒たちは積極的に参加しました。多い時には参加者が100名を超えるほど。これからは「地域に愛される都市大付属」を目指し、地域貢献に努めます。



東京都市大学等々力中学校・高等学校

共学部1期生が挑んだ初めてのスポーツ大会

共学部1期生にとって、初めてのスポーツ大会が2010年5月27日に開催されました。大会テーマは「絆」。クラスの仲間や担任の先生との「絆」、学校全体の「絆」をより深く結ぶという思いが込められています。各種のクラス対抗プログラムを通じて、ノブレス・オブリージュの教育の成果をうかがうことができ、保護者席からも歓声が上がっていました。



東京都市大学塩尻高等学校

公立高校との交換授業が7年目を迎える

長野県塩尻志学館高校との交換授業が7年目を迎えました。2010年度、東京都市大学塩尻高等学校の生徒(3年生11名)が学んだのは農業科目「生物活用」、塩尻志学館高校の生徒(3年生8名)は工業科目「CGD(コンピュータグラフィックスデザイン)」を学びました。この事業は、国内でもたくいまれな公立高校と私立高校の連携関係の上に成り立っています。受講生の延べ人数は100名を超えます。



東京都市大学付属小学校

危険を予測する力を養う「地域安全マップ教室」

2010年12月13日、東京都市大学付属小学校では「地域安全マップ作り教室」(主催:『だいじょうぶ』キャンペーン実行委員会、特別協賛:東急グループ)を開催し、4年生78名が参加しました。この取り組みは、子どもたちが犯罪に巻き込まれるのを未然に防ぐために、危険な場所を予測する力を身につけることを目的としています。授業では、犯罪が起きやすい場所のキーワードとして「入りやすい場所」「見えにくい場所」を学んだ後、グループに分かれ学校周辺にある危険な場所を探し出し、なぜ危険なのかを考えながら地図作成のための材料を集めま



した。模造紙に描き上げた手作りの地図には、危険な場所の写真やイラスト、説明文それぞれに工夫が凝らしてあります。参加児童からは「弟や妹にも教えてあげたい」「もっと詳しいマップを作成したい」という感想が聞かれました。

東京都市大学二子幼稚園

天候に恵まれた晴れの運動会を満喫

2010年10月初旬、東京都市大学二子幼稚園の運動会を開催しました。晴々とした天候にも恵まれ、園児たちの元気な姿が印象的でした。玉入れや障害物競走など、「遊びを通してたくましい体、豊かな心を身につける」を見事に実践していました。また、卒園者などで構成された同窓会組織「ふたば会」をはじめ、多くの方にご協力をいただくことができました。今後も、こうした四季折々のイベントを通じて、豊かで健やかな子どもたちを育てていきます。



財務ハイライト

*文中および各計算書に記載した金額は各表示単位未満を切り捨てています。
そのため合計や増減などの項目で一致しない場合があります

キャッシュフロー計算書 (C/F)	金額	前年比
① 教育活動によるキャッシュフロー	35億円	前年比1.6%減
② 施設活動によるキャッシュフロー	△32億円	前年比2.0%減
③ 財務活動によるキャッシュフロー	△5億円	前年比0.6%増
④ 積立資産によるキャッシュフロー	3億円	前年比14.0%減
⑤ 合計(繰越支払資金の増減) ①+②+③+④	1億円	前年比32.4%減

学校法人を構成する各学校・幼稚園の教育活動、施設・設備投資、財務活動などに関する資金移動を表す財務諸表です

*△は、出金が入金より多いことを示しています

消費収支計算書 (P/L)	金額	前年比
① 経常収入	180億円	前年比10.8%減
② 経常支出	172億円	前年比3.6%減
③ 経常利益 ①-②	8億円	前年比65.2%減
④ 特別収入	23億円	前年比16.2%減
⑤ 特別支出	3億円	前年比0.9%減
⑥ 特別利益 ④-⑤	19億円	前年比18.5%減

学校法人会計の消費収支計算書をもとに経常収支と特別収支に分けて計算しています。企業会計の損益計算書に相当します

*経常収入とは、学生生徒等納付金、手数料などの経常的な収入。特別収入とは、資産売却差額、資産運用収入などの非経常的な収入を指します
*経常支出とは、人件費、教育研究費、管理経費の経常的な支出。経常利益とは経常収入と経常支出との差額です

資産		負債・純資産	
有形固定資産	635億円 前年比4.8%増	長期・短期借入金	39億円 前年比15.2%減
引当特定資産	184億円 前年比2.4%減	他の負債	110億円 前年比0.5%増
その他	138億円 前年比2.4%減	純資産	808億円 前年比3.5%増
資産合計	959億円 前年比2.2%増	負債・純資産合計	959億円 前年比2.2%増

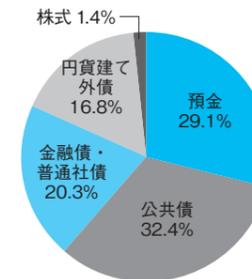
土地・建物などの資産の状況、長期借入金などの負債の状況、および基本金組入額から、学校法人の資産、負債、純資産の均衡を把握します

*純資産とは、基本金と消費収支差額の部の合計です

資金運用について

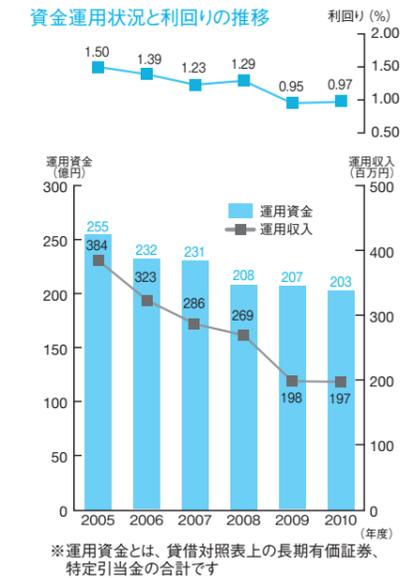
五島育英会は「資金の運用に関する取扱規程」に基づき、安全を第一とし、将来の資金需給に留意しつつ運用することを原則としています。運用の対象は、確実な金融機関の預金のほか、公社債が中心です。前述の規程により、為替変動り

保有資産別運用構成 (2011年3月現在)



スクの伴う外貨建て外債、先物・スワップなどのデリバティブ取引については行っておりません。ただし、安全性の高い商品については、確定利付以外の商品も一部運用しています。

2010年度は、長期金利が7年ぶりに一時1%を割り込み、外為市場では16年ぶりの円高水準となるなど、五島育英会のポートフォリオにも少なからず影響を与えた1年でした。このように金融市場は不安定な状況が続いていますが、五島育英会では引き続き着実な資金運用を行ってまいります。



施設・設備の拡充について

グループ各学校・幼稚園が利用する 東京都市大学総合グラウンドを開設

東京都市大学総合グラウンドは、東京都市大学グループの大学、高等学校、中学校、小学校、幼稚園のほぼ中間に位置する好立地にあり「グループ全体の総合力発揮」を体現する取り組みの一つとして位置づけています。大学から幼稚園までの学生・生徒・児童・園児たちが、健康と体力の増進をはじめ、様々な教育活動に活用しています。また、2011年2月には、シャトルバスを導入し、利便性を高めています。

利用目的：東京都市大学グループを形成する大学から幼稚園までの運動施設として利用
施設概要：野球場1面(両翼90m、中堅100m)、テニスコート4面、多目的グラウンド1面(テニスコート9面としての利用可能)、クラブハウス2棟(第1：2階建440㎡、第2：平屋510㎡)
敷地面積：26,901㎡(公簿面積)
所在地：東京都世田谷区鎌田1-16-1
アクセス：東急田園都市線二子玉川駅から東急バスにて、都市大総合グラウンド前下車
開設日：2010年6月24日



東京都市大学世田谷キャンパス 新1号館の新築工事を開始

東京都市大学は2010年11月16日、新1号館新築工事の起工式を行いました。新1号館は地下1階に教室・機械室、地上1階に学生支援センター、エントランス、教室、2・3階に教室、ラウンジ、研究室を設け、4階に大学事務室を配置。省エネ対策として、自然換気システムを取り入れた通風、外付ブラインドを設置して空調エネルギー負荷を軽減するとともに、氷蓄熱利用の空調機器、屋上・壁面緑化などを採用し、ヒートアイランドの防止に努めます。

工期：2010年11月16日～2013年12月26日(竣工予定)
建物構造：RC造・一部S造、地上4階・地下1階
敷地面積：23,971.57㎡
建築面積：3,500㎡
延床面積：15,000㎡



東京都市大学等々力中学校・ 高等学校の新校舎が完成

東京都市大学等々力中学校・高等学校の新校舎が2010年8月に竣工しました。1階には、物理、化学、生物の実験室などを設け、2～4階には教室やサテライト職員室、5階には241人収容の多目的ホールや食事、催事などに活用できる学生ラウンジのほか、屋上菜園などを配置しています。省エネルギー化の取り組みとして、空調設備に深夜電力による氷蓄熱システムを採用するとともに、各階に吹き抜け「風と光の道」を2カ所ずつ設置。自然通風と自然採光を取り入れ冷暖房機の利用軽減を図ります。

工期：2009年10月13日～2010年8月15日
建物構造：RC造、地上5階
敷地面積：11,064.09㎡
建築面積：1,673.10㎡
延床面積：6,320.63㎡



2010年度 五島育英会の財務概要

五島育英会では、学校法人会計の基本となる財務三表（消費収支計算書、資金収支計算書、貸借対照表）に加え、現実の資金移動を示した「キャッシュフロー計算書」、消費収支計算書を損益計算書の形式に置き換えた「消費収支計算書（P/L）」を公表して、説明責任を積極的に果たすべく努力を続けています。

2011年5月16日の理事会で決定した2010（平成22）年度決算の概要をお知らせします。

キャッシュフロー計算書

キャッシュフロー計算書は、会計年度内に遂行した事業活動に関する資金の動きを記録した財務諸表です。教育研究、施設等整備、財務などの事業ごとにキャッシュフローを計算して、それぞれの収入と支出から健全な学校経営がなされているかを確認します。

「教育研究活動によるキャッシュフロー」は、各学校の教育研究活動と収益部門による営業活動を含めた金額で構成してお

り、収入超過が通常の状態です。2010年度は学生生徒数が前年を上回り、入学金や授業料などの学生生徒等納付金は7億7700万円増収の125億1800万円となりました。しかし、「事業収入」の科目で東急自動車学校の収入が減少したほか、「その他」の科目で2009年度に計上した東急自動車整備専門学校の移転補償料が減少したことから、教育研究活動による収入は9億1000万円減収して188億700万円になりました。一方の支出面では、管理経費などの経費節減努力が功を奏し、教育研究活動によるキャッシュフローは35億5700万円を計上して、昨年に引き続き収入超過を維持しました。

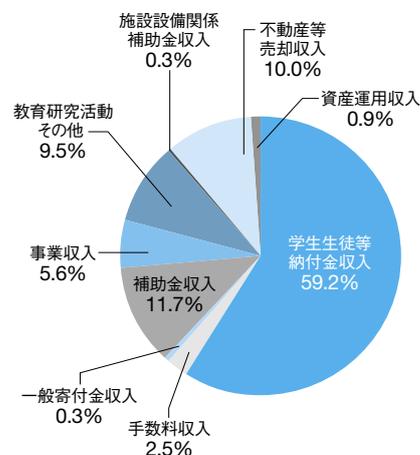
「施設等整備活動によるキャッシュフロー」は、校舎の建設や機器・備品を購入するための資金の動きを表しており、支出超過が通常の状態になります。2010年度は、東京都市大学総合グラウンドの取得に20億円、都市大世田谷キャンパスの1号館新築工事に4億6600万円、等々力中高の校舎新築に16億円を投資したことから、施設等整備活動によるキャッシュフローは32億200万円の支出超過になりました。

■ 2010（平成22）年度 キャッシュフロー計算書

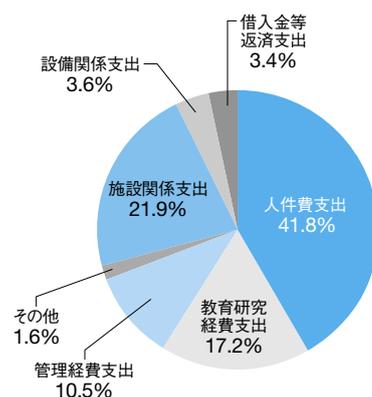
（単位：百万円）

科目	当年度決算	前年度決算	差異
事業活動によるキャッシュフロー			
i 教育研究活動によるキャッシュフロー			
学生生徒等納付金収入	12,518	11,741	777
手数料収入	539	555	△ 16
一般寄付金収入	62	36	25
補助金収入	2,476	2,361	114
事業収入	1,192	1,426	△ 233
その他	2,017	3,595	△ 1,577
小計 (A)	18,807	19,717	△ 910
人件費支出	8,989	9,573	△ 583
教育研究経費支出	3,666	3,694	△ 28
管理経費支出	2,240	2,813	△ 573
その他	351	18	333
小計 (B)	15,249	16,100	△ 851
(A - B)	3,557	3,616	△ 58
ii 施設等整備活動によるキャッシュフロー			
国庫補助金収入	55	109	△ 54
不動産等売却収入	2,121	2,531	△ 409
小計 (C)	2,176	2,640	△ 463
施設関係支出	4,676	3,848	828
設備関係支出	773	1,049	△ 275
その他	△ 71	1,013	△ 1,084
小計 (D)	5,379	5,910	△ 531
(C - D)	△ 3,202	△ 3,270	67
I 事業活動によるキャッシュフロー	(i + ii)	346	8
財務活動によるキャッシュフロー			
資産運用収入	201	219	△ 17
その他	0	17	△ 16
小計 (E)	202	236	△ 34
借入金等利息支出	86	99	△ 13
借入金等返済支出	715	732	△ 17
小計 (F)	801	832	△ 30
II 財務活動によるキャッシュフロー	(E - F)	△ 595	△ 3
III キャッシュフローの小計	(I + II)	△ 249	5
積立資産によるキャッシュフロー			
施設設備引当資産収入 (G)	6,273	10,837	△ 4,564
施設設備引当資産支出 (H)	5,919	10,426	△ 4,506
IV 積立資産によるキャッシュフロー	(G - H)	411	△ 57
合計（繰越支払資金の増減）	(III + IV)	162	△ 52

キャッシュフロー計算書
収入の内訳



キャッシュフロー計算書
支出の内訳



■ 2010 (平成22) 年度 消費収支計算書 (P/L)

(単位: 百万円)

科目	当年度決算	前年度決算	差異	科目	当年度決算	前年度決算	差異
経常収支の部							
学生生徒等納付金	12,518	11,741	777	人件費 (退職金支出を除く)	8,399	8,541	△ 142
手数料	539	555	△ 16	退職給与引当金	676	936	△ 260
寄付金	154	100	54	教育研究経費	5,588	5,470	117
補助金	2,531	2,470	60	管理経費	2,605	2,979	△ 373
資産運用収入	619	595	24				
事業収入	1,192	1,426	△ 233				
雑収入 (退職団体交付金を除く)	178	2,866	△ 2,687				
退職団体交付金	360	546	△ 185				
経常収入 (A)	18,095	20,301	△ 2,206	経常支出 (B)	17,269	17,928	△ 658
				I 経常収支差額 (A - B)	825	2,372	△ 1,547
特別収支の部							
資産運用収入	201	219	△ 17	借入金利息	86	99	△ 13
資産売却差額	2,104	2,533	△ 429	資産処分差額他	281	271	9
特別収入 (C)	2,306	2,752	△ 446	特別支出 (D)	367	371	△ 3
				II 特別収支差額 (C - D)	1,938	2,381	△ 442
消費収支差額の部							
基本金組入額 (E)	△ 4,869	△ 2,877	△ 1,992	III 帰属収支差額 (I + II)	2,763	4,754	△ 1,990
				消費収支差額 (III + E)	△ 2,105	1,877	△ 3,982

以上の教育研究活動、施設等整備活動によるキャッシュフローを合計したのが「事業活動によるキャッシュフロー」です。教育研究活動が35億5700万円の収入超過、施設等整備が32億200万円の支出超過だった結果、事業活動のキャッシュフローは3億5500万円を計上して、昨年度と同様に収入超過を維持しています。

次に、事業活動を安定的に継続するために調達した資金の状況を表しているのが、「財務活動によるキャッシュフロー」と「積立資産によるキャッシュフロー」です。財務活動によるキャッシュフローは、資産運用収入2億100万円を計上するとともに、借入金の元本返済を進めるなど8億100万円を計上して、5億9900万円の支出超過となりました。事業活動と財務活動を合計したキャッシュフロー合計は2億4400万円の支出超過となりましたが、積立資産によるキャッシュフローを3億5300万円計上したことから、1億900万円の繰越支払資金になりました。

消費収支計算書 (P/L)

五島育英会では、会計年度内に計上した収入と支出の状況について、より詳細に把握するために経常収支と特別収支を算出して損益計算書の形式に置き換えた「消費収支計算書 (P/L)」を作成しています。

経常収支には、会計年度が変わっても大きく変動すべきではない収入と支出の科目を計上しています。収入科目では、学生生徒等納付金、手数料など、支出科目では、人件費、教育研究経費などが該当します。

2010年度は、学生生徒等納付金や補助金による収入が増えた一方で事業収入や雑収入が減ったことから、経常収入が22億円減収の180億9500万円になりました。経常支出は経費節減など

により2009年度実績から6億5800万円減少となり、172億6900万円を計上しています。収入は減少したものの支出を抑制した結果、経常収支は8億2500万円の収入超過を維持することができました。

次に特別収支では、会計年度によって変動する傾向にある収入と支出の科目を計上しています。収入科目では資産の運用や売却によって得られた収入、支出科目では借入金利息の支払いや資産処分差額などが該当します。

特別収支は、土地売却などによる資産売却差額21億400万円が寄与して、19億3800万円の収入超過になりました。

以上により帰属収支差額は27億6300万円の収入超過になりましたが、学校法人会計の特徴である基本金（固定資産等の取得額ほか）を組み入れた結果、消費収支差額は21億500万円の支出超過を計上しています。

資金収支計算書

資金収支計算書は、会計年度内に遂行した事業活動に対応する資金移動を記録しています。年度内に発生した資金の出入りを明らかにすることで、健全な学校経営がなされているかを把握することを目的としています。

2010年度の収入の部は、学生生徒等納付金収入、手数料収入、資産売却収入が予算を上回る金額を計上して、当年度収入合計は297億3400万円になりました。

支出の部は、教育研究経費、管理経費などが予算を下回る一方で、資産運用支出が予算を上回る金額を計上して、当年度支出合計は296億2400万円になりました。

収入と支出の差額69億9500万円を次年度への繰越支払資金として計上しました。

2010年度 五島育英会の財務概要

消費収支計算書

消費収支計算書は、会計年度に計上した収支の内容を記載した財務諸表です。安定的かつ永続的に経営を遂行する学校法人の状況を知ることができます。

消費収入の部では、学生生徒数と志願者数がともに予算人員を超えたことから、学生生徒等納付金、手数料のいずれも予算を上回りました。さらに寄付金、資産売却差額をはじめほとんどの科目が予算を超えたことから、学校の実質的収入を表す帰属収入合計は予算を2億9800万円上回る204億100万円になりました。

消費支出の部では、経費節減などにより予算を下回り、1億6100万円減少の176億3700万円になりました。

以上により、当年度帰属収支差額は、予算に対して4億6000万円上回る27億6300万円の収入超過になりました。当年度消費収支差額は予算45億1600万円の支出超過を見込んでいましたが、基本金組入額合計は予算を下回ったことから、21億500万円の支出超過にとどまりました。

貸借対照表

貸借対照表は、年度末の時点で学校法人が所有する資産の状況を知るための財務諸表の一つです。表の左側には土地や建物をはじめとする「資産の部」を記載する一方、表の右側には長期借入金や退職給与引当金などの「負債の部」、学校法人会計の特徴である「基本金」「消費収支差額の部」を記載しています。

2010年度決算の資産総額は、2011（平成23）年3月31日時点で959億900万円となり、前年度より21億400万円増えました。

資産の部で有形固定資産は、東京都市大学総合グラウンドの土地取得などにより29億400万円増えて635億8400万円になりました。そのほかの固定資産は、施設拡充引当特定資産を施設などの整備のための資金として取り崩し、3億500万円減少して239億4000万円になりました。

負債の部では、借入金の元本返済により長期借入金は7億1500万円圧縮して32億6200万円になりました。基本金48億6900万円を新たに組み入れた結果、純資産は27億6300万円増え、資産の充実を図ることができました。

2010（平成22）年度 資金収支計算書

科目	当年度決算	当年度予算	増減
収入の部			
学生生徒等納付金収入	12,518	12,134	384
手数料収入	539	477	61
寄付金収入	62	66	△3
補助金収入	2,531	2,427	104
国庫補助金収入	1,237	1,236	1
地方公共団体補助金収入	1,293	1,170	123
その他補助金収入	0	20	△20
資産運用収入	821	776	44
資産売却収入	6,118	4,897	1,220
事業収入	1,192	1,739	△546
雑収入	433	416	17
前受金収入	2,883	2,522	360
その他の収入	5,961	6,926	△965
資金収入調整勘定	△3,327	△2,870	△457
当年度収入合計	29,734	29,514	220
前年度繰越支払資金	6,885	6,926	△41
収入の部合計	36,620	36,441	179

(単位：百万円)

科目	当年度決算	当年度予算	増減
支出の部			
人件費支出	8,990	8,973	16
教育研究経費支出	3,666	4,056	△389
管理経費支出	2,240	2,343	△102
借入金等利息支出	86	86	0
借入金等返済支出	715	715	0
施設関係支出	4,676	6,103	△1,427
設備関係支出	773	1,064	△290
資産運用支出	5,919	3,325	2,594
その他の支出	3,031	3,038	△6
予備費		134	△134
資金支出調整勘定	△476	△440	△35
当年度支出合計	29,624	29,400	224
次年度繰越支払資金	6,995	7,040	△45
支出の部合計	36,620	36,441	179
当年度資金収支差額	109	113	△3

2010（平成22）年度 消費収支計算書

科目	当年度決算	当年度予算	増減
消費収入の部			
学生生徒等納付金	12,518	12,134	384
手数料	539	477	61
寄付金	154	66	88
補助金	2,531	2,427	104
国庫補助金	1,237	1,236	1
地方公共団体補助金	1,293	1,170	123
その他補助金	0	20	△20
資産運用収入	821	776	44
資産売却差額	2,104	2,063	40
事業収入	1,192	1,739	△546
雑収入	538	416	122
帰属収入合計	20,401	20,102	298
基本金組入額合計	△4,869	△6,820	1,950
消費収入の部合計	15,532	13,282	2,249

(単位：百万円)

科目	当年度決算	当年度予算	増減
消費支出の部			
人件費	9,075	8,920	155
教育研究経費	5,588	5,900	△311
管理経費	2,605	2,689	△84
借入金等利息	86	86	0
資産処分差額	280	67	213
予備費		134	△134
消費支出の部合計	17,637	17,799	△161
当年度帰属収支差額	2,763	2,303	460
当年度消費収支差額	△2,105	△4,516	2,411

■ 2010（平成22）年度 貸借対照表

(単位：百万円)

科目	本年度末残高	前年度末残高	増減
資産の部			
固定資産	87,524	84,926	2,598
有形固定資産	63,584	60,679	2,904
土地	25,704	23,691	2,012
建物	28,815	27,918	896
構築物	2,159	2,022	137
機器備品等	4,054	4,222	△ 168
図書	2,374	2,387	△ 12
建設仮勘定	476	437	38
その他の固定資産	23,940	24,246	△ 305
借地権	1,464	1,480	△ 16
施設利用権等	655	655	0
収益事業元入金等	1,495	1,325	170
各種引当特定資産	18,438	18,895	△ 457
第3号基本金引当資産等	1,885	1,889	△ 3
流動資産	8,384	8,878	△ 494
現金預金	6,995	6,885	109
未収入金	539	1,165	△ 625
有価証券	802	800	1
その他流動資産	47	27	19
資産の部合計	95,909	93,804	2,104

科目	本年度末残高	前年度末残高	増減
負債・基本金および消費収支差額の部			
固定負債	10,472	11,191	△ 718
長期借入金	3,262	3,977	△ 715
退職給与引当金	5,716	5,761	△ 44
長期預り金等	1,493	1,452	41
流動負債	4,565	4,506	59
短期借入金	715	715	0
未払金	462	613	△ 151
前受金	2,883	2,788	95
預り金等	504	388	115
負債の部合計	15,038	15,697	△ 659
基本金	90,128	85,259	4,869
第1号基本金	85,928	81,061	4,867
第2号基本金	1,172	1,172	0
第3号基本金	1,807	1,805	1
第4号基本金	1,221	1,221	0
消費収支差額の部	△ 9,257	△ 7,152	△ 2,105
(純資産)	80,871	78,107	2,763
負債・基本金および消費収支差額の部合計	95,909	93,804	2,104

注記

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

徴収不能引当金 未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

退職給与引当金 退職給与引当金の額の算定方法は、次のとおりである。

① 大学などの教職員にかかる退職給与引当金については、期末要支給額4,453,646,563円の100%を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と交付金の累計額との繰入調整額を加減した金額を計上している。

② 高等学校以下の教職員にかかる退職給与引当金については、期末要支給額856,979,272円の100%を基にして私学退職金団体よりの交付金相当額を控除した金額を計上している。

(2) その他の重要な会計方針

有価証券の評価基準および評価方法 移動平均法による原価法

預り金その他経過項目にかかる収支の表示方法 預り金にかかる収入と支出は相殺して表示している。

2. 重要な会計方針の変更等

なし

3. 減価償却額の累計額の合計額

29,043,153,639円

4. 徴収不能引当金の合計額

0円

5. 担保に供されている資産の種類および額は、次のとおりである。

土地 19,491,213,632円 建物 4,602,957,920円

定期預金 150,000,000円

6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額

3,287,637,489円

7. その他財政および経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

(単位：円)

	当年度（平成23年3月31日）		
	貸借対照表計上額	時価	差異
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	11,422,729,203	11,789,727,500	366,998,297
（うち満期保有目的の債券）	0	0	0
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	7,163,350,738	6,705,568,900	△457,781,838
（うち満期保有目的の債券）	0	0	0
合計	18,586,079,941	18,495,296,400	△90,783,541
（うち満期保有目的の債券）	0	0	0
時価のない有価証券	250,000		
合計	18,586,329,941		

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リース取引

①平成21年4月1日以降に開始したリース取引

(単位：円)

リース物件の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高
教育研究用機器備品	7,425,684	5,236,602
合計	7,425,684	5,236,602

②平成21年3月31日以前に開始したリース取引

(単位：円)

リース資産の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高
教育研究用機器備品	191,324,801	43,698,203
その他の機器備品	5,545,284	2,143,676
合計	196,870,085	45,841,879

6年間の財務データ（推移）

■ キャッシュフロー計算書

科目	2005年度 (平成17)	2006年度 (平成18)	2007年度 (平成19)	2008年度 (平成20)	2009年度 (平成21)	2010年度 (平成22)	増減 (対2005年度)
事業活動によるキャッシュフロー							
i 教育研究活動によるキャッシュフロー							
学生生徒等納付金収入	11,290	11,318	11,323	11,196	11,741	12,518	1,228
手数料収入	449	456	425	502	555	539	90
一般寄付金収入	128	142	98	62	36	62	△ 66
補助金収入	2,608	2,502	2,592	2,376	2,361	2,476	△ 132
事業収入	2,264	2,148	2,184	2,037	1,426	1,192	△ 1,072
その他	661	1,077	1,137	1,767	3,595	2,017	1,356
小計 (A)	17,400	17,643	17,759	17,940	19,717	18,807	1,407
人件費支出	10,270	9,977	9,509	9,779	9,573	8,989	△ 1,281
教育研究経費支出	3,764	4,712	3,711	4,031	3,694	3,666	△ 98
管理経費支出	2,052	2,252	2,084	2,795	2,813	2,240	188
その他	403	74	221	△ 13	18	351	△ 52
小計 (B)	16,489	17,015	15,525	16,592	16,100	15,249	△ 1,240
(A - B)	911	628	2,234	1,348	3,616	3,557	2,646
ii 施設等整備活動によるキャッシュフロー							
特別寄付金収入 (指定寄付)	421	0	0	0	0	0	△ 421
国庫補助金収入	219	75	81	126	109	55	△ 164
不動産等売却収入	254	2	0	0	2,531	2,121	1,867
小計 (C)	894	77	81	126	2,640	2,176	1,282
施設関係支出	3,428	3,277	703	3,651	3,848	4,676	1,248
設備関係支出	723	772	411	894	1,049	773	50
その他	767	20	△ 31	△ 1,043	1,013	△ 71	△ 838
小計 (D)	4,918	4,069	1,083	3,502	5,910	5,379	461
(C - D)	△ 4,024	△ 3,992	△ 1,002	△ 3,376	△ 3,270	△ 3,202	822
I 事業活動によるキャッシュフロー (i + ii)	△ 3,113	△ 3,364	1,232	△ 2,026	346	355	3,468
財務活動によるキャッシュフロー							
資産運用収入	387	332	315	305	219	201	△ 186
借入金等収入	1,801	1,400	0	0	0	0	△ 1,801
その他	56	394	212	20	17	0	△ 56
小計 (E)	2,244	2,126	527	326	236	202	△ 2,042
借入金等利息支出	96	123	128	113	99	86	△ 10
借入金等返済支出	664	759	754	753	732	715	51
その他	52	381	182	0	0	0	△ 52
小計 (F)	812	1,263	1,064	866	832	801	△ 11
II 財務活動によるキャッシュフロー (E - F)	1,432	863	△ 537	△ 540	△ 595	△ 599	△ 2,031
キャッシュフローの合計 (I + II)	△ 1,681	△ 2,501	695	△ 2,566	△ 249	△ 244	1,437

■ 貸借対照表

科目	2005年度 (平成17)	2006年度 (平成18)	2007年度 (平成19)	2008年度 (平成20)	2009年度 (平成21)	2010年度 (平成22)	増減 (対2005年度)
資産の部							
固定資産							
有形固定資産	55,995	56,745	55,618	58,057	60,679	63,584	7,589
うち土地	23,584	23,593	23,593	23,691	23,691	25,704	2,120
うち建物	21,933	25,214	24,511	25,650	27,918	28,815	6,882
その他の固定資産	28,566	26,359	26,421	24,152	24,246	23,940	△ 4,626
うち引当特定資産	23,617	21,301	21,248	18,943	18,895	18,438	△ 5,179
流動資産	8,612	8,311	9,067	8,942	8,878	8,384	△ 228
うち現金預金	7,285	7,034	7,036	6,722	6,885	6,995	△ 290
うち有価証券	501	501	1,199	1,202	800	802	301
資産の部合計	93,174	91,416	91,107	91,152	93,804	95,909	2,735
負債・基本金および消費収支差額の部							
負債							
固定負債	13,607	13,828	12,987	12,130	11,191	10,472	△ 3,135
流動負債	4,336	4,163	3,987	5,669	4,506	4,565	229
うち借入金残高	6,289	6,931	6,178	5,425	4,692	3,977	△ 2,312
基本金	80,337	80,455	80,488	82,382	85,259	90,128	9,791
消費収支差額	△ 5,106	△ 7,031	△ 6,356	△ 9,029	△ 7,152	△ 9,257	△ 4,151
純資産	75,230	73,424	74,132	73,352	78,107	80,871	5,641
負債・基本金および消費収支差額の部合計	93,174	91,416	91,107	91,152	93,804	95,909	2,735
正味引当特定資産残高 (引当特定資産残高 - 借入金残高)	17,328	14,370	15,070	13,518	14,203	14,461	△ 2,867

※引当特定資産残高：有価証券、退職給与、施設拡充、施設取得計画(2号)の合計

■ 消費収支計算書 (P/L)

科目	2005年度 (平成17)	2006年度 (平成18)	2007年度 (平成19)	2008年度 (平成20)	2009年度 (平成21)	2010年度 (平成22)	増減 (対2005年度)
経常収支の部							
学生生徒等納付金	11,290	11,318	11,323	11,196	11,741	12,518	1,228
手数料	449	456	426	502	555	539	90
寄付金	187	191	158	118	100	154	△ 33
補助金	2,827	2,578	2,673	2,502	2,470	2,531	△ 296
資産運用収入	561	572	583	601	595	619	58
事業収入	2,264	2,148	2,183	2,037	1,426	1,192	△ 1,072
雑収入 (退職団体交付金を除く)	61	212	248	64	2,866	178	117
退職団体交付金	537	525	418	685	546	360	△ 177
小計 (A)	18,176	18,000	18,012	17,709	20,301	18,095	△ 81
人件費	9,334	8,978	8,684	8,676	8,541	8,399	△ 935
退職給与引当金	765	808	812	1,022	936	676	△ 89
教育研究経費	5,595	6,513	5,634	5,748	5,470	5,588	△ 7
管理経費	2,285	2,457	2,319	3,038	2,979	2,605	320
予備費	0	0	0	0	0	0	0
小計 (B)	17,979	18,756	17,449	18,484	17,928	17,269	△ 710
I 経常収支差額 (A - B)	197	△ 756	563	△ 775	2,372	825	628
特別収支の部							
寄付金 (指定寄付)	422	0	0	0	0	0	△ 422
資産売却差額	336	2	0	0	2,533	2,104	1,768
資産運用収入	387	332	315	305	219	201	△ 186
小計 (C)	1,145	334	315	305	2,752	2,306	1,161
借入金利息	96	124	128	113	99	86	△ 10
資産処分差額他	126	1,259	43	195	271	281	155
小計 (D)	222	1,383	171	309	371	367	145
II 特別収支差額 (C - D)	923	△ 1,049	144	△ 3	2,381	1,938	1,015
消費収支差額 (I + II)	1,120	△ 1,805	707	△ 779	4,754	2,763	1,643
減価償却額	2,063	2,005	2,000	1,957	1,937	2,285	222

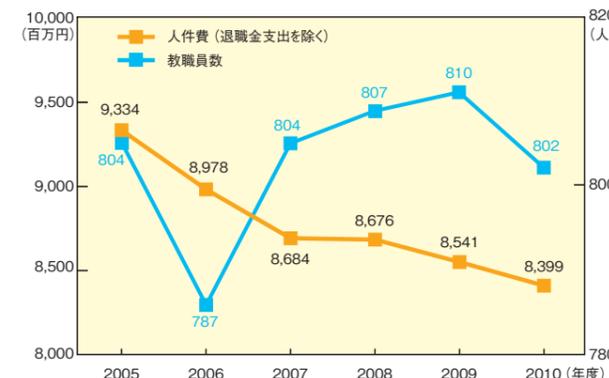
事業活動によるキャッシュフロー、経常収支差額の推移



総学生生徒数と納付金収入の推移



人件費と教職員数の推移



施設関係支出と設備関係支出の推移



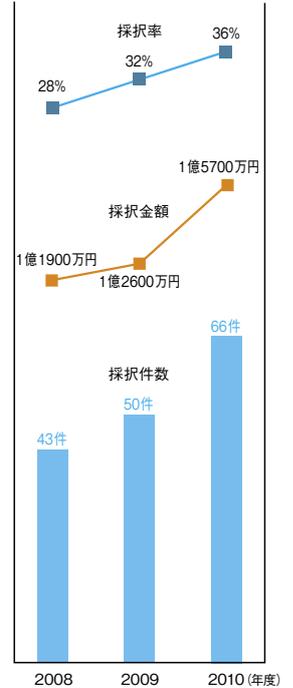
競争的研究資金および研究助成

■ 競争的研究資金および研究助成

(単位：千円)

事業名・助成金名など	担当官庁ほか	所属	氏名	受入額
建築基準整備促進事業	国交省	工学部都市工学科	末政直晃	35,000
戦略的国際標準化推進事業／標準化研究開発・標準化先導研究	NEDO	工学部都市工学科	長岡裕	9,998
最先端研究開発支援プログラム	内閣府	総合研究所	白木靖寛	4,800
省水型・環境調和型水循環プロジェクト／水循環要素技術開発／省エネ型分離活性汚泥法 (MBR) 技術の開発	NEDO	工学部都市工学科	長岡裕	3,150
地域社会雇用創造事業 社会的企業人材創出・インターンシップ事業	内閣府	環境情報学部環境情報学科	佐藤真久	2,835
試験研究調査委託費	経産省	工学部建築学科	濱本卓司	2,826
イノベーション実用化助成事業	NEDO	総合研究所	吉川弘道	2,100
イノベーションシステム整備事業	文科省	工学部機械システム工学科	田中康寛	1,501
地域イノベーション創出研究開発事業	経産省	工学部機械工学科	白木尚人	1,480
厚生労働省科学研究費補助金	厚生省	人間科学部児童学科	近藤雅雄	1,400
研究助成金 (財団法人日揮・実吉奨学会)		工学部機械工学科	富士原民雄	2,000
研究助成金 (財団法人日揮・実吉奨学会)		知識工学部情報ネットワーク工学科	傘昊	2,000
研究助成金 (財団法人天田金属加工機械技術振興財団)		工学部機械工学科	亀山雄高	1,540
研究助成金 (財団法人池谷科学技術振興財団)		工学部機械工学科	藤岡卓也	1,000
研究助成金 (財団法人鹿島学術進行財団)		工学部建築学科	勝又英明	900

文部科学省科学研究費補助金 (科研費) の採択件数、金額、採択率の推移



文部科学省科学研究費補助金 (科研費)	件数	受入額
基盤研究 (A)	1	10,400
基盤研究 (B)	13	80,860
基盤研究 (C)	37	41,080
挑戦的萌芽研究	1	800
若手研究 (A)	1	5,200
若手研究 (B)	11	16,770
研究成果公開促進費	1	1,100
研究活動スタート支援	1	1,625
	66	157,835

お知らせ

遺贈による寄付制度

五島育英会は中央三井信託銀行と提携し、「遺贈による寄付制度」を導入しました。

「遺贈による寄付」とは、個人の方が自身の財産を「社会のために役立てたい」と考えている場合などに、遺言によって財産の一部を公益団体に寄付することをいいます。

中央三井信託銀行が数多くの公益団体と提携しているのが「遺贈による寄付制度」であり、個人の方より公益団体に対して具体的な相談・申し入れがあった場合に、中央三井信託銀行が相談の受け付け、遺言書の保管・管理、遺言執行など、総合的なサポートを行なうものです。遺言による相続は、法定相続とは異なり被相続人の意思に沿った財産の分配ができるとして、近年増加傾向にあります。

個人の方が本法人に対し遺贈による寄付をお考えの場合、本制度を利用すると中央三井信託銀行所定の遺言書基本保管料が割引になるなどの利点があります。なお、遺贈による寄付財産は相続税の非課税財産となります。

保管料等詳細については、下記までお問い合わせください。ますようお願いいたします。

[お問い合わせ先]

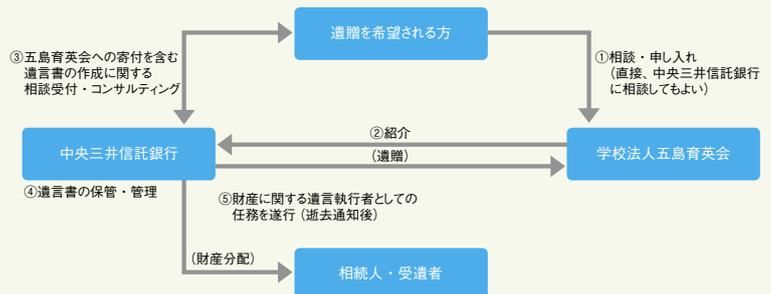
▽学校法人五島育英会

法人本部 財務グループ TEL：03-3464-6919

▽中央三井信託銀行

営業企画部 財産管理業務センター TEL：03-5232-8627

■ 遺贈による寄付制度の枠組みと流れ



■ 在学学生生徒数・応募者数関連

(単位:人)

科目	2005年度 (平成17)	2006年度 (平成18)	2007年度 (平成19)	2008年度 (平成20)	2009年度 (平成21)	2010年度 (平成22)
学生生徒数	10,248	10,245	10,090	9,871	10,276	11,189
東京都市大学	6,359	6,401	6,446	6,505	7,002	7,451
その他	3,889	3,844	3,644	3,366	3,274	3,738
応募者数	18,147	18,861	19,633	18,085	20,437	19,582
東京都市大学	14,099	12,734	13,061	12,536	16,330	15,814
その他	4,048	6,127	6,572	5,549	4,107	3,768
専任教職員数	804	787	804	807	810	802
教員職員	447	430	446	456	451	458
大学	229	215	231	228	264	272
その他	218	215	215	228	187	186
技術職員	58	58	52	49	48	48
事務職員	210	205	208	208	211	206
大学	121	118	117	119	141	147
その他	89	87	91	89	70	59
収益部門職員	89	94	98	94	100	90

※各年度の5月1日現在の数字。応募者数に関しては延べ人数となります

財産目録

財産目録 2011 (平成23) 年3月31日

I 資産総額	金	95,909,293,729 円	II 負債総額	金	15,038,171,754 円
内 1 基本財産	金	64,024,957,913 円	III 正味財産	金	80,871,121,975 円
2 運用財産	金	26,087,387,797 円			
[3 収益事業用財産	金	5,796,948,019 円]	(注記) 資産の価額は、取得価額(減価償却資産については帳簿価額)基準による		

1 資産

1. 基本財産

(単位:円)

区分	数量	価額・金額
(1) 土地	322,206.74 m ²	25,619,083,206
(2) 建物	171,622.44 m ²	26,869,281,310
(3) 構築物	—	1,154,537,707
(4) 教具・校具及び備品	50,252 点	3,826,474,424
(5) 図書	532,211 冊	2,374,896,505
(6) 車輛	12 台	25,620,199
(7) 建設仮勘定	2 口	476,264,000
(8) 借地権	28,789.34 m ²	326,308,828
(9) 電話加入権	184 台	10,675,915
(10) 施設利用権	18 件	41,598,540
(11) ソフトウェア	54 口	242,616,411
(12) 施設取得計画(2号)引当資産	1 口	1,172,000,000
(13) 第3号基本金引当資産	3 口	1,807,176,689
(14) 奨学資金引当特定資産	2 口	78,424,179
計	—	64,024,957,913

3. 収益事業用財産

(単位:円)

区分	数量	価額・金額
(1) 事業用建物	7,705.03 m ²	1,946,027,318
(2) 事業用構築物	—	1,004,772,779
(3) 事業用動産(機器・備品他)	278 点	202,057,094
(4) 借地権	163.86 m ²	1,138,236,000
(5) 施設利用権	11 件	602,690,254
(6) 施設拡充引当特定資産	1 口	129,868,298
(7) 積立保険金	1 口	30,990,301
(8) 修繕積立金	1 口	208,227,444
(9) 長期前払費用	1 件	2,085,036
(10) 設備利用権	24 件	11,417,577
(11) 預金・現金	—	417,520,146
(12) 未収入金	17 口	68,343,947
(13) 貯蔵品	—	6,054,774
(14) 前払金	35 口	17,705,421
(15) 立替金	1 口	10,951,630
計	—	5,796,948,019

3 借用財産

区分	数量	備考
(1) 土地	88,937.43 m ²	東京都市大学 校地ほか
(2) 建物	0.00 m ²	(該当なし)
計	—	

2. 運用財産

(単位:円)

区分	数量	価額・金額
(1) 預金・現金	—	6,577,876,382
(2) 退職給与引当特定資産	5 口	2,668,500,000
(3) 施設拡充引当特定資産	8 口	14,150,500,000
(4) 有価証券	1 口	317,920,310
(5) 不動産	107,368.79 m ²	85,355,857
(6) 収益事業元入金	1 口	1,000,000,000
(7) 長期貸付金	3 口	1,094,000
(8) 短期貸付金	1 口	240,000
(9) 未収入金	81 口	471,373,889
(10) 貯蔵品	—	631,509
(11) 前払金	92 口	8,249,500
(12) 立替金	6 口	3,239,155
(13) 仮払金	1 口	174,253
(14) 短期有価証券	1 口	802,232,942
計	—	26,087,387,797

2 負債

1. 固定負債

(単位:円)

区分	数量	価額・金額
(1) 長期借入金	15 口	3,262,440,000
(2) 退職給与引当金	580 人	5,335,039,793
(3) 長期未払金	1 口	14,651,280
計	—	8,612,131,073

2. 流動負債

(単位:円)

区分	数量	価額・金額
(1) 短期借入金	14 口	715,270,000
(2) 前受金	13 口	2,697,001,500
(3) 未払金	15 口	411,671,898
(4) 預り金	30 口	472,638,355
計	—	4,296,581,753

3. 収益事業用負債

(単位:円)

区分	数量	価額・金額
(1) 退職給与引当金	70 人	381,397,555
(2) 長期預り金	2 口	479,136,603
(3) 収益事業元入金	1 口	1,000,000,000
(4) 未払金	2 口	50,835,418
(5) 前受金	5 口	186,655,802
(6) 預り金	2 口	5,942,840
(7) 未払費用	1 口	25,490,710
計	—	2,129,458,928

2011年度の事業計画

学校法人五島育英会は、伝統を基盤とする独自性と進取の精神をもって新たな教育環境の整備、教育内容の充実に取り組んでいます。社会的信頼を高め、持続性を確保すべく、2011年度の事業計画を策定しました。

【広報】

東京都市大学グループ誕生以降、グループ全体および各学校の認知向上、理解促進のために強力な広報活動を推進しております。2011年度からは、東京都市大学を中心に各学校の明確なブランド形成によりスピーディに取り組むこととし、都市大グループおよび各学校の魅力・実績や未来の姿など様々な面の情報に関連させ、ブランド価値を高めることに特化した広報活動を行います。活動にあたっては、以下の3点をポイントとします。

- (1) ブランド形成を強力に推進するための重点施策を実施します。
- (2) CSR (USR) 活動(社会貢献、地域貢献)の充実に向け、学校ならではの文化活動、地域との連携事業を積極的に推進します。
- (3) 都市大グループ内の情報の共有化を推進し、一層の活性化、相乗効果をもたらすための施策を実行します。

五島育英会広報委員会は、その編成や活動内容を一部見直し、各学校とさらに緊密に連携し積極的な広報活動を展開します。

【人事】

東京都市大学グループでは、2009年度から事務職員および小中高の教育職員には新人事制度を導入し、「職員力」の向上に向けた取り組みを展開しております。2011年度には幼稚園の教育職員に対し、新たな人事制度を導入しました。職員の資質向上とモチベーションアップを図ることにより、幼稚園のさらなる質的向上を目指します。

2010年度は、東京都市大学の事務組織を改編し、3キャンパスの連携強化や職員の機動的、効果的配置などに取り組みました。2011年度は、さらにその活動を推進するとともに、都市大グループ全体の取り組みとして、働きやすい環境整備の実現、職員の健康と安全を保つためのワーク・ライフ・バランスの促進を目指します。

【財務】

教育環境の整備充実を引き続き行います。2010年度に着工した東京都市大学世田谷キャンパス1号館の新築工事など、総額31億3500万円の施設等整備計画を立てています。

2010年度から東京都市大グループ全校で、募集定員を超えた入学者を確保しています。学生生徒等納付金は2010年度予算より増額を見込んでいますが、消費収支差額は基本金の組み入れが影響し支出超過予算となっています。

【施設等整備計画】

2010年度に引き続き、学生、生徒、児童、園児が学ぶ環境をさらに充実させていきます。主な施設等整備計画は下記のとおりです。

(1) 校舎の新築工事

東京都市大学世田谷キャンパス新1号館新築工事(継続案件)

(2) 校舎改修工事

東京都市大学世田谷キャンパス空調設備更新工事、世田谷キャンパス12号館整備工事、東京都市大学等々力中学校・高等学校校舎改修工事(継続案件)、東京都市大学原子力研究所液体廃棄物廃棄施設の

機能停止措置および解体・撤去、東京都市大学横浜キャンパス5号館(体育館)改修工事、東京都市大学横浜キャンパス3号館空調設備工事

【収益事業等】

不動産賃貸市況は、空室率の上昇、賃貸料の下落など厳しい環境にあります。

五島育英会ビルでは、利用者に安全性と快適性を提供するための適切な運営を行うとともに、セキュリティシステム、省エネ性と機能性に優れた空調システムの導入など、改修工事を行っています。このことにより競争力を高め、安定した収益の確保につなげていきます。

東急自動車学校は、基本料金の見直しやスクールバスルートへのエリア拡大などにより、集客の増加を図ります。多摩中央警察署や南大沢警察署、多摩商工会議所との連携を生かした営業活動を推進し、地元に対する知名度の浸透や顧客層の拡大に努めます。

■ 2011(平成23)年度キャッシュフロー予算書

(単位:百万円)

	2011年度予算	2010年度予算	差異
事業活動によるキャッシュフロー			
i 教育研究活動によるキャッシュフロー			
学生生徒等納付金収入	13,093	12,134	958
手数料収入	521	477	43
一般寄付金収入	52	66	△13
補助金収入	2,397	2,377	19
事業収入	1,257	1,739	△481
退職金団体交付金収入	220	375	△154
その他	819	1,355	△536
小計(A)	18,363	18,526	△163
人件費支出(退職金支出を除く)	8,609	8,502	106
退職金支出	444	471	△26
教育研究経費支出	3,855	4,056	△200
管理経費支出	2,308	2,343	△35
その他	421	475	△53
小計(B)	15,640	15,848	△208
(A - B)	2,723	2,677	45
ii 施設等整備活動によるキャッシュフロー			
特別寄付金収入	0	0	0
国庫補助金収入	0	50	△50
不動産等売却収入	3,356	2,081	1,274
小計(C)	3,356	2,131	1,224
施設関係支出	3,135	6,103	△2,967
設備関係支出	847	1,064	△216
その他	6	4	1
小計(D)	3,989	7,173	△3,183
(C - D)	△633	△5,041	4,407
I 事業活動によるキャッシュフロー(i + ii)	2,089	△2,364	4,453
財務活動によるキャッシュフロー			
資産運用収入	231	188	43
その他	0	0	0
小計(E)	231	188	44
借入金等利息支出	73	86	△12
借入金等返済支出	715	715	0
小計(F)	788	801	△12
II 財務活動によるキャッシュフロー(E - F)	△556	△612	56
III キャッシュフローの合計(I + II)	1,532	△2,976	4,509
IV 積立資産によるキャッシュフロー			
施設設備引当資産収入(G)	3,556	6,415	△2,859
施設設備引当資産支出(H)	5,086	3,325	1,761
(G - H)	△1,530	3,090	△4,620
繰越支払資金の増減(III + IV)	2	113	△111

2011年度の施設等整備計画

世田谷キャンパスリニューアル計画 環境配慮型の新1号館建設工事が進行中

東京都市大学世田谷キャンパスでは、教育・研究環境をさらに充実させるための再整備事業を進めています。2006年8月の建築学科棟の竣工、2009年7月の生体医工学科棟の竣工に続いて着手しているのが、2010年11月16日に起工式を行った新1号館です。

新1号館の建設工事は2期に分けて行い、総工期3年をかけて建設を進めています。完成すると、地下1階地上4階建て、大中小の教室49室に加え、学生支援センターや研究室、管理部門などを持つ複合施設となります。設計コンセプトの中心は、環境に配慮したサステイナブル（持続可能な）施設です。自然光を取り込む採光システムや自然換気窓を取り入れた通風システム、太陽光発電などにより先進的な工夫をふんだんに盛り込んでいます。

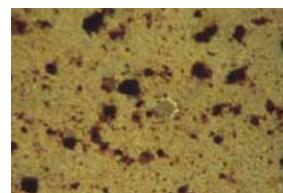
なお、新1号館の完成後は、7号館を解体しその跡地を新しい広場などに活用する予定です。研究施設のリニューアルに関しては、時代のニーズに合わせて積極的に対応することが「教育力と研究力」をさらに高めるために欠かせないと考えており、真に価値のあるリニューアルを目指して計画を進めています。

■東京都市大学 世田谷キャンパス 新1号館 新築工事について
 【工期】2010年11月16日～2013年12月26日竣工予定
 【建物構造】RC造一部S造 地上4階・地下1階
 【敷地面積】23,971.57㎡ 【建築面積】3,500㎡ 【延床面積】15,000㎡



新1号館の建設現場で「地層見学会」

2011年2月12日、新1号館の建設現場で「地層見学会」を実施しました。この見学会は、知識工学部自然科学科で開講している「野外調査法及び実習」や共通科目「地学実験」などの受講者を対象としたフィールドワークの一環です。13名の学生が参加し、地下に埋もれた海の地層や水田跡の地層の観察から、縄文時代以降のこの土地の変遷を学びました。



観察後は、採取した試料を洗い出し、火山灰鉱物や火山ガラスの検出から鉱物の同定などを行いました

各種奨学制度

【奨学金制度】

五島育英会では、当法人における各種奨学制度と、ご父母保証人、卒業生、企業などの皆様のご理解とご協力による各種寄付を活用し、学生・生徒の学びと成長を支援しています。

奨学金名	2010年度採用実績	奨学金名	2010年度採用実績
五島育英基金	133件	五島育英会曾称奨学基金	1件
武蔵育英基金	171件	山田奨学基金	12件
蔵田奨学基金	1件	今泉奨学基金	5件
東京都市大学黒澤敦・淑子奨学金	8件	東京都市大学佐野利秋国際交流奨学金	4件
東京都市大学桐華奨学基金	5件	峰奨学基金	1件
小島奨学基金	6件	本多奨学基金	—

奨学金の概要は五島育英会ホームページをご覧ください。 <http://www.goto-ikuei.ac.jp/10hojin/scholarship.html>



2010年6月、都市大グループ各学校において、五島育英基金授与式を行いました。学業・人物ともに優秀な学生、生徒に対し奨学金が給費されました

【その他の支援制度】

五島育英会では、現在のような経済状況が不安定な中であっても、学生・生徒の皆様が学修の機会を失わず、希望を持って未来に挑戦できるように応援してまいります。詳しくは、都市大グループ各学校までお問い合わせください。

- ・小学生から大学院生までの家計急変に対する在學生への緊急支援
- ・地震等災害における学費等減免

【教育ローンについて】

五島育英会では、金融機関との提携による「学校法人五島育英会教育ローン」制度を設置しております。本制度は銀行や信販会社など指定金融機関から学納金の融資を受けられるもので、経済的理由により就学が困難な学生・生徒・児童に対して、経済的負担を軽減することを目的としています。

ご支援のお願い	<p>五島育英会では、都市大グループ各学校の教育・研究活動のさらなる充実のために、皆様のご芳志を活用しています。当法人の取り組みをご理解いただき、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、五島育英会に対する寄付金は、控除対象寄付金として東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、塩尻市の各自治体の指定を受けています。そのため、個人の方が五島育英会に寄付された際は、住民税の税額控除を受けられる場合があります。詳しくは下記までお問い合わせください。</p> <p>【お問い合わせ先】 学校法人五島育英会 法人本部 財務グループ 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-10-7 五島育英会ビル8F TEL：03-3464-6919（ダイヤルイン） FAX：03-3464-6650</p>
----------------	---

学校法人五島育英会の概要

事業活動

学校法人五島育英会は、経営基盤の安定化を図り、不動産賃貸や指定自動車教習所の運営などを手がけています。長期的、安定的な収入を確保するために、業務の見直しを重ね、魅力あるサービスを皆様にご提供しています。

東急自動車学校（東急ドライビングスクール）

2009年12月に二子玉川から多摩市唐木田へ移転してから1年以上が経過しました。2010年4月から2011年3月までの1年間で合計4404名の入校者がありました。アンケート調査によれば、教習所を選ぶポイントとして35%の人が挙げているのが「自宅からの近さ」でした。実際、本校に入校された方のほとんどが、多摩市、八王子市、町田市といった近隣地域在住で、普通自動車教習に通う方の約5割が大学生、約2割が高校生です。

移転に先立って唐木田地区周辺への広報活動に取り組み、各種キャンペーンを実施しました。2010年12月から2011年3月の「開校1周年キャンペーン」で予約先取り6回無料などを特典としたところ、普通車だけで1000名近い入校実績を挙げることができました。

また、3ルートだった無料スクールバスのルートは「淵野辺駅・桜美林大コース」を加え4ルートとしました。2011年度は「Spring・Summerキャンペーン」「秋キャンペーン」「2周年キャンペーン」を実施し、さらなる入校者獲得を目指します。

2011年4月現在、本校には11名の管理職を含む90名の指導員・事務員が勤務しています。2010年9



2009年12月から多摩市唐木田で開業している東急自動車学校



月から2011年1月までは、課長・係長・係長補佐を対象とした「経営研究会」を毎月1回開催し、外部講師による講義を受講するだけでなく、ディスカッションにも参加することで問題意識の喚起を促しました。

茨城県ひたちなか市の中央研修所で「高齢者講習」資格を受講してきた指導員もいます。これにより70歳以上が免許更新の際に受講しなければならない「高齢者講習」が行えるようになります。

自動車教習所に求められるのは、免許証を得るための講習だけではありません。地域住民の交通安全に寄与するような啓蒙活動を行うことも大切なミッションの一つだと考えています。

南大沢署の二輪競技大会、多摩中央署の高齢者対象安全教室を実施し、地域の方のための交通安全活動に協力しています。地域の方とのつながりを深めるため、2010年10月には、大妻女子大学、恵泉女学園大学、多摩中央警察署、多摩消防署などの協力を得て、「感謝祭」を開催しました。当日は、乗車体験や模擬店、抽選会などを行い、参加されたお客様からも好評を博しました。こうしたイベントは毎年続けていきたいと考えています。

2011年度には、タクシーや代行運転を行うための「普通二種指定前教習」をスタートさせる予定で、指定取得を目指して準備を進めています。



■ホームページ
<http://www.109n.jp>
東急自動車学校
所在地：
東京都多摩市唐木田3-6
TEL:042-372-0109

五島育英会ビル

五島育英会ビルは、JR渋谷駅西口（南改札）から徒歩5分という利便性を備えており、都心型のオフィスビルとして活用しています。

2010年に設立した早稲田大学との共同大学院のキャンパスとしても使用されています。

【建物概要】

建物名称：五島育英会ビル
敷地面積：1,001.79㎡
構造：鉄骨鉄筋コンクリート造・
地下3階地上8階塔屋1階
建物面積：899.27㎡
建物延面積：8,777.88㎡



五島育英会野川ビル

東急田園都市線沿線の閑静な住宅街にたたずむ地上5階建ての一括賃貸物件です。公園などが多い地域に立地し、快適性と利便性を備えて収益事業の一翼を担っています。

所在地：神奈川県川崎市宮前区野川 3024-2
最寄駅：東急田園都市線「鷺沼」駅
建物構造：鉄筋コンクリート造、地上5階建



組織改革

学校法人五島育英会では、大学、高等学校、中学校、小学校、幼稚園および自動車学校の全9校を設置しています。さらに質の高い学生サポート体制の確立を目指し、学校間の連携強化とグループ全体の総合力の向上を図ります。

CS向上推進活動

「CS」と「SD」の連携強化を課題に
多彩な取り組みを実施

2009年4月、東京都市大学事務局にCS・人材開発室を設置し、同時に法人本部を含む全キャンパス事務局にCS (Customer Satisfaction／顧客満足) 活動が導入されました。2年目となる2010年度は、活動テーマを『CSマインドを意識した「接客改善・業務改善」活動の更なる推進及びこれを定着させるための「仕組みづくり」』とし、6つの具体的な活動方針を策定、それに沿って活動を展開しました。

CS向上推進活動の中心を担う「CS向上推進プロジェクト」は、各キャンパスおよび法人本部内に継続して組織されています。2010年度は「学生等対応ガイドライン(業務編、接客マナー編)」の検討・決定や「学生から見た窓口対応アンケート調査」の結果を踏まえ、業務改善などを実行しました。

SD(スタッフディベロップメント)推進の取り組みとしては、職員の階級に合わせて業務スキルアップを目指した研修会を実施しました。例えば、新人職員を対象とした「CS導入教育」、係長職を対象

とした「プレゼンテーションスキルアップ研修」など、対象者と研修目的を明確にし、それぞれの立場やキャリアに応じた内容で実施しました。

また、2010年12月14日には、CS向上推進プロジェクトのメンバーを対象としたインターン研修を、東京急行電鉄株式会社の協力を得て開催しました。研修は「東急お客さまセンター」の見学やCS先進企業ビデオを視聴し、グループディスカッションや発表などを通じて、参加者はCS推進に対する理解を深めました。

こうした研修会を通じて部署間の連携も高まり、情報の共有化がよりスムーズとなりました。毎年2回実施している「学生から見た窓口対応のアンケート調査」でも改善が見られ、継続的な取り組みの成果が表れつつあります。

2010年度CS・人材開発室のテーマ

「CSマインドを意識した「接客改善・業務改善」活動の更なる推進及びこれを定着させるための「仕組みづくり」

- 活動方針
1. 学生満足度の把握・分析
 2. 接客改善の推進
 3. SD(スタッフディベロップメント)との連携
 4. 職員表彰制度の導入
 5. 情報収集システムの整備
 6. CS啓発活動



CS向上委員会が取りまとめた「平成22年度CS向上推進活動報告書」



2010年12月14日に行われたインターン研修の様子。年間18万件の問い合わせに対応する東急電鉄の「東急お客さまセンター」を見学し、企業がどのようにお客様の声を業務に反映しているかについて学びました

新人事制度

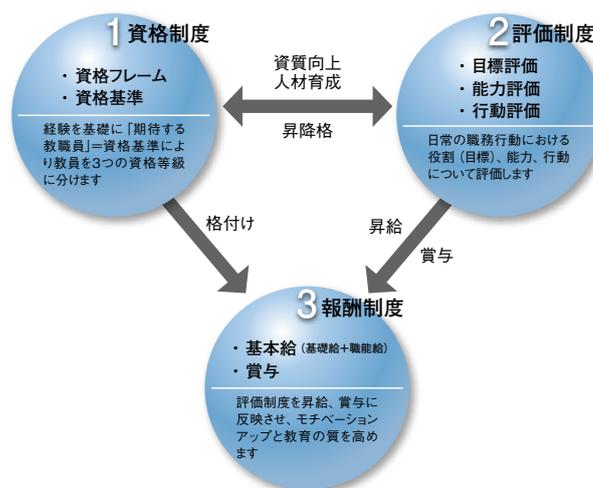
2010年度から小中高教育職を対象に
新人事制度を導入

東京都市大学グループでは、さらに魅力ある学校づくりを進めるため、「職員力」の向上、人材育成を目的とした人事制度改革に取り組んでおり、2006年度より事務職員を対象に新人事制度を導入・施行しています。

2010年度からは、新たに小中高の教育職員を対象とした新人事制度を導入し、教員の能力および資質向上を図り、人材の育成と活用、学校組織の活性化に向けて取り組みました。新人事制度は資格制度、評価制度、報酬制度の3つの制度から成り立ち、相互にリンクさせて運用する仕組みです。

また、2011年度には幼稚園教育職員を対象に新人事制度を運用する予定です。

■ 新人事制度の概要



次世代育成支援対策

働きやすい環境整備を促進

五島育英会では、厚生労働省『次世代育成支援対策推進法』の趣旨に基づき、一般事業主行動計画を策定しました。これは、職員の仕事と子育ての両立支援、職員の能力を十分に発揮できるような職場環境の整備を目指しています。

次世代育成支援対策の概要

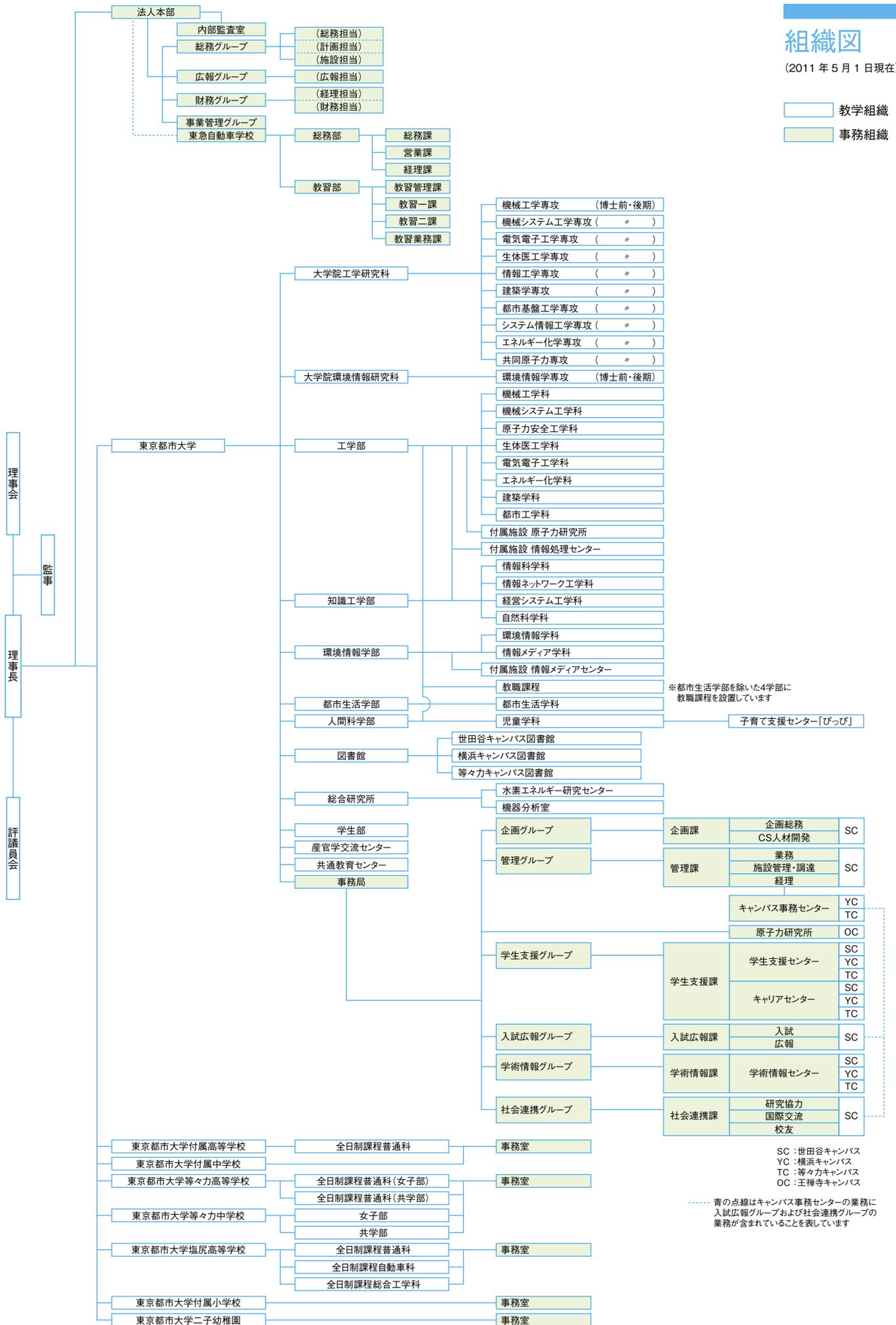
(2010年度12月15日から2015年12月14日までの5年間)

- (1) 関連法令の遵守及び諸制度を整備のうえ、周知・啓蒙を行い、更に積極的な利用の促進を図る
- (2) 所定外勤務削減のための措置の実施
- (3) 子ども・子育てに関する地域貢献活動の推進を図る

組織図

(2011年5月1日現在)

□ 教学組織
 □ 事務組織



※都市生活学部を除いた4学部
 教職課程を設置しています

SC: 世田谷キャンパス
 YC: 横浜キャンパス
 TC: 等々力キャンパス
 OC: 王禅寺キャンパス

青の点線はキャンパス事務センターの業務に
 入試広報グループおよび社会連携グループの
 業務が含まれていることを表しています

役員一覧

(2011年4月1日現在) 理事、監事、評議員の任期: 2009年5月27日~2012年5月26日

■ 理事(14名)

安達 功 理事長
 國分 榮 専務理事
 広江秀夫 常務理事
 中村英夫 東京都市大学総長・学長
 山口裕啓
 上條清文 東京急行電鉄株式会社取締役相談役
 越村敏昭 東京急行電鉄株式会社取締役会長
 清水 仁 学校法人亜細亜学園理事長
 東京急行電鉄株式会社相談役
 海老原大樹 東京都市大学等々力中学校・
 高等学校校長
 神宮進一 東京都市大学事務局長
 橋本昌彦 法人本部総務グループ担当理事
 植木正威 東急不動産株式会社取締役会長
 関 博 武蔵工業会理事長
 小林菊恵 美砂会会長

■ 監事(3名)

岩田哲夫 東京急行電鉄株式会社常勤監査役
 垣本謙一郎 東京急行電鉄株式会社常勤監査役
 指田誠一 武蔵工業会監事

■ 評議員(30名)

中村英夫 東京都市大学総長・学長
 五十嵐勲 東京都市大学付属中学校・
 高等学校校長
 海老原大樹 東京都市大学等々力中学校・
 高等学校校長
 河西靖男 東京都市大学塩尻高等学校校長
 重永睦夫 東京都市大学付属小学校校長
 波田野久美子 東京都市大学二子幼稚園園長
 片田敏行 東京都市大学工学部長
 宮内 新 東京都市大学知識工学部長
 中原秀樹 東京都市大学環境情報学部教授
 平本一雄 東京都市大学都市生活学部長
 神宮進一 東京都市大学事務局長
 橋本昌彦 法人本部総務グループ担当理事
 小坂哲郎 東京都市大学事務局
 学術情報グループ部長

小杉雅克 東京都市大学事務局
 社会連携グループ部長
 齋藤 勉 東京都市大学付属中学校・
 高等学校事務室長
 関 博 武蔵工業会理事長
 松下正勝 武蔵工業会副理事長
 吉田 勝 武蔵工業会常務理事
 小林菊恵 美砂会会長
 川辺加代子 美砂会副会長
 安達 功 理事長
 山口裕啓
 上條清文 東京急行電鉄株式会社取締役相談役
 越村敏昭 東京急行電鉄株式会社取締役会長
 清水 仁 学校法人亜細亜学園理事長
 東京急行電鉄株式会社相談役
 植木正威 東急不動産株式会社取締役会長
 國分 榮 専務理事
 広江秀夫 常務理事
 曾禰昭夫
 服部光伸 学校法人亜細亜学園理事

東急グループについて



日本有数の企業グループ、東急グループは、交通、不動産、流通、レジャー・サービス、ホテル、建設など、生活者と直接接点を持つ様々な事業を展開しています。

東急グループのグループスローガン「美しい時代へー東急グループ」には、グループの存在理念「美しい生活環境を創造し、調和ある社会と、一人ひとりの幸せを追求する」

という願いが込められています。

学校法人五島育英会は、教育事業を通して、東急グループの社会貢献事業の一翼を担うとともに、私学ならではの独自の理念に沿った良質の教育・研究を通して、豊かな人間性と広い視野を持つ未来志向の人材を育成し、変化する社会の要請にこたえています。

五島育英会ハヶ岳山荘

ハヶ岳山荘は、ハヶ岳の主峰・赤岳の山麓に広がる清里高原の中、大自然の山懐に優しく包まれた場所にあります。体育館を併設し、フィールドワークとともに各種の研修などインドアワークも可能となっており、夏期はもちろんのこと、ウインタースポーツの基地としても利用できるオールシーズン型の厚生施設です。

所在地: 山梨県北杜市高根町清里 3545-1
 TEL : 0551-48-2019
 HP : <http://www.goto-ikuei.ac.jp/yatsu>

料金区分 (1泊2食)	特別利用料金	
	10月~6月	7月~9月
教職員・在校生およびその家族	2,500円	3,500円
一般 (卒業生・関係者およびその家族)	4,500円	



ロビー&ラウンジ



体育館



五島育英会ハヶ岳山荘

Campus Photo

幼稚園と大学を結ぶ一本の桜

(東京都市大学横浜キャンパス正門の染井吉野)

東京都市大学横浜キャンパス正門横に大きな桜(染井吉野)があります。これは、1957年頃、初代理事長の五島慶太が幼稚園に植えた桜で、毎年素晴らしい花を咲かせてきました。しかし、二子玉川地区の再開発のため幼稚園が移転になり、大学が桜を譲り受けました。2006年3月に移植が完了し、長年にわたり園児に親しまれた桜は、現在は勉学に勤む都市大生を見守っています。





CITY
UNIV.

「都市」から未来へ。

都市大グループは、幼稚園から大学までグループの総合力を活かした“良質の教育”を実践。多様性と可能性に満ちた「都市」から羽ばたく、健全な精神と豊かな教養を身につけた、「未来志向の人材」を育成してまいります。



進化する都市大グループ TCU NEWS

事業戦略をリアルタイムに学ぶ 「東急グループの都市創造」を開講中

東京都市大学 都市生活学部では、東急グループ各社において現在進行中の事業戦略を実務担当者から学ぶ特別連続講義「東急グループの都市創造」(全14回)を開講中。グループのスケールメリットを存分に生かした、独自の教育活動を展開しています。



東京都市大学附属小学校 食育プログラムがスタート

東京都市大学附属小学校では、2011年4月よりシェフ三國清三氏を総合監修ならびに講師に迎え、食育プログラムがスタート。児童の味覚や豊かな心の育成、生きる力を育みます。



「都市」で学ぶ。「人」を育てる。「未来」を築く。——都市大グループ

(旧 武蔵工業大学)



東京都市大学

TOKYO CITY UNIVERSITY

世田谷キャンパス [工学部/知識工学部]

横浜キャンパス [環境情報学部]

等々力キャンパス [都市生活学部/人間科学部]

附属中学校・高等学校 / 等々力中学校・高等学校 / 塩尻高等学校 / 附属小学校 / 二子幼稚園

(旧 武蔵工業大学附属中学校・高等学校)

(旧 東横学園中学校・高等学校)

(旧 武蔵工業大学第二高等学校)

(旧 東横学園小学校)

(旧 東横学園二子幼稚園)

詳しくは特設ウェブサイトへ! ▶ <http://toshidai-group.jp>